平成 2 9 年 1 2 月 1 9 日

平成 2 9 年 第 4 回 和 東 町 議 会 定 例 会

(第 2 号)

和 東 町 議 会

平成 2 9 年 第 4 回 和 東 町 議 会 定 例 会

会 議 録 (第 2 号)

招 集 年 月 日 平 成 2 9 年 1 2 月 1 9 日 (火)

招 集 の 場 所 和 東 町 議 会 議 場

開 閉 議 日 時 開 議 午 前 9 時 3 0 分

閉 議 午 後 3 時 3 4 分

出 席 議 員 (1 0 名)

1 番	岡	田	泰	正	2 番	藤	井	清	隆	
3 番	村	山	一	彦	4 番	吉	田	哲	也	
5 番	井	上	武	津	男	6 番	岡	本	正	意
7 番	畑		武	志	8 番	竹	内	き	み	代
9 番	小	西		啓	1 0 番	岡	田			勇

欠 席 議 員 (0 名)

な し

職 務 の た め 議 場 に 出 席 し た 者 の 氏 名

事 務 局 長 島 川 昌 代

書 記 今 西 靖

地方自治法第121条の規定により、説明のため議会に出席した者の職氏名

町	長	堀	忠	雄			
副	町	長	奥	田	右		
総	務	課	長	中	嶋	浩	喜
総務課	地方創生担当課長	草	水	清	美		
地域力推進課長	犬	石	剛	史			
人権啓発課長	井	上	順	三			
税住民課長	細	井	隆	則			
福祉課長	岡	田	博	之			
診療所事務長	久	保	順	一			
農村振興課長	東	本	繁	和			
建設事業課長	馬	場	正	実			
会計管理者兼会計課長	山	本	千	代	美		

議	事	日	程	別	紙	の	と	お	り								
会	議	に	付	し	た	事	件	別	紙	議	事	日	程	の	と	お	り
会	議	の	経	過	別	紙	の	と	お	り							
会	議	録	署	名	議	員	4	番	吉	田	哲	也					
							5	番	井	上	武	津	男				

議事日程（第2号）

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 諸般の報告
- 日程第 3 議案第36号 平成29年度和束町一般会計補正予算（第6号）
議案第37号 平成29年度和束町介護保険特別会計補正予算（第3号）
議案第38号 平成29年度和束町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
- 日程第 4 議案第39号 和束町体験交流センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 5 議案第40号 特別職の職員で常勤のものゝ給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
議案第41号 和束町職員ゝ給与に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第 6 議案第42号 平成29年度和束町簡易水道統合事業中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事請負契約の変更について
- 日程第 7 議案第43号 土地改良事業の施行について（災害復旧）
- 日程第 8 発議第 6号 介護保険制度の改悪に反対し、抜本的改善を求める意見書
- 日程第 9 委員会ゝ閉会中ゝ継続審査・調査について

午前 9 時 3 0 分開会

○議長（岡田 勇君）

皆さん、おはようございます。

本日はご苦労さまです。

ただいまから、平成 2 9 年和東町議会第 4 回定例会を再開いたします。

本日の会議を開きます。

日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第 1 2 5 条の規定により、4 番、吉田哲也議員、5 番、井上武津男議員を指名いたします。

以上の両議員に差し支えのある場合には、次の議席の議員にお願いをいたします。

日程第 2、諸般の報告を行います。

議長より報告いたします。

1 2 月 1 3 日付で、和東町森林組合代表理事組合長 久保雅昭氏から、森林組合に対する助成金の増額について要望書が出されております。

以上で、報告を終わります。

日程第 3、議案第 3 6 号 平成 2 9 年度和東町一般会計補正予算（第 6 号）、議案第 3 7 号 平成 2 9 年度和東町介護保険特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 3 8 号 平成 2 9 年度和東町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）、以上 3 件を一括議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長（堀 忠雄君）

議案第 3 6 号から議案第 3 8 号の提案理由を申し上げます。

議案第 3 6 号 平成 2 9 年度和東町一般会計補正予算（第 6 号）は、災害復旧事業、
産地パワーアップ事業、地方創生推進交付金事業、人事院勧告に伴う

人件費並びに社会資本整備総合交付金の確定に伴う道路舗装維持管理
事業の見直し等において

議案第37号 平成29年度和束町介護保険特別会計補正予算（第3号）は、保険
事業勘定における居宅介護サービス並びに介護予防サービス給付費等
において、介護サービス事業勘定における介護予防計画委託料等におい
て

議案第38号 平成29年度和束町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）は、
保険基盤安定負担金の確定に伴う後期高齢者医療広域連合納付金にお
いて

それぞれ予算補正を必要といたしますので、提案させていただいた次第でございます。

ご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

総務課長。

○総務課長（中嶋浩喜君）

おはようございます。

それでは、私からは、議案第36号のご説明を申し上げます。議案書をよろしくお
願い申し上げます。

議案第36号

平成29年度和束町一般会計補正予算（第6号）

平成29年度和束町一般会計補正予算（第6号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,500万円を追加し、
歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ32億5,636万8千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入
歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

(地方債の補正)

第2条 既定の地方債の変更は、「第2表 地方債補正」による。

平成29年12月19日提出

和東町長 堀 忠雄

次のページが第1表でございます。

款、補正前の額、補正額、計の順に申し上げます。

まず、歳入でございます。

10款地方交付税、15億7,782万5,000円、554万8,000円、15億8,337万3,000円。

12款分担金及び負担金、7,312万2,000円、404万3,000円、7,716万5,000円。

14款国庫支出金、2億6,879万5,000円、△4,476万1,000円、2億2,403万4,000円。

15款府支出金、1億9,208万2,000円、3,466万9,000円、2億2,675万1,000円。

17款寄附金、25万8,000円、1万5,000円、27万3,000円。

19款繰越金、5,529万3,000円、1,428万6,000円、6,957万9,000円。

21款町債、3億8,220万円、1,120万円、3億9,340万円。

歳入合計でございます。32億3,136万8,000円、2,500万円、32億5,636万8,000円でございます。

次のページが歳出でございます。

1款議会費、5,626万1,000円、9万7,000円、5,635万8,000円。

2款総務費、5億9,934万9,000円、1,251万2,000円、6億1,1

86万1,000円。

3款民生費、7億412万円、755万4,000円、7億1,167万4,000円。

4款衛生費、4億4,930万9,000円、177万7,000円、4億5,108万6,000円。

5款農林業費、1億3,972万6,000円、1,334万1,000円、1億5,306万7,000円。

6款商工費、7,661万8,000円、50万円、7,711万8,000円。

7款土木費、3億547万円、△9,974万2,000円、2億572万8,000円。

8款消防費、2億692万2,000円、10万8,000円、2億703万円。

次のページでございます。

10款災害復旧費、2,546万9,000円、8,805万3,000円、1億1,352万2,000円。

13款予備費、500万円、80万円、580万円。

歳出合計は、歳入合計と同じでございます。

次のページでございます。

第2表の地方債補正でございます。

全て変更ということで、起債の目的として、門前橋整備事業（過疎対策）でございます。

補正前の限度額が2,130万円。

起債の方法が証書借入又は証券発行。

利率が、年5%以内（ただし、利率見直し方式で借り入れる政府資金及び地方公共団体金融機構資金等について、利率の見直しを行った後においては、当該見直し後の利率）。

償還の方法、政府資金については、その融資条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協定するものによる。ただし、町財政の都合により、据え置き期間及び償還期限を短縮し、又は繰上償還もしくは低利に借換えすることができる。

補正後の限度額が1,870万円でございます。

起債の方法、利率、償還の方法は、補正前と同じでございます。

以下、起債の方法、利率、償還の方法は、補正前・補正後同様でございますので、省略させていただきまして、起債の目的と補正前の限度額と補正後の限度額を申し上げます。

橋梁補修事業（過疎対策）、490万円、360万円。

道路舗装維持管理事業（過疎対策）、1,570万円、120万円。

道路舗装維持管理事業（辺地対策）、700万円、0円。

災害復旧事業、240万円、3,900万円。

計、5,130万円、6,250万円でございます。

続きまして、予算に関する説明書、資料No.36につきましてご説明申し上げます。

総括は省略させていただきまして、5ページ、6ページをお願い申し上げます。

まず、歳入でございます。

10款地方交付税、1項地方交付税、1目地方交付税、554万8,000円でございます。

普通交付税を見込んでおります。

12款分担金及び負担金、1項分担金、1目災害復旧費分担金、404万3,000円。

内訳といたしまして、1節農林業施設災害復旧費分担金で266万3,000円、2節農地災害復旧費分担金で138万円を計上させていただいております。

14款国庫支出金、1項国庫負担金、3目災害復旧費国庫負担金で3,474万8,

000円の補正でございます。

1節公共土木施設災害復旧費負担金でございます。内訳といたしまして、道路橋りょう災害復旧費負担金で2,754万4,000円、河川災害復旧費負担金で720万4,000円となっております。

14款国庫支出金、2項国庫補助金、1目総務費国庫補助金で165万円でございます。

これにつきましては、1節総務管理費補助金ということで、地方創生推進交付金の茶業のリノベーション分でございます。

同款、同項、4目土木費国庫補助金で△8,265万9,000円でございます。

3節道路橋りょう費補助金でございます。内訳といたしまして橋りょう長寿命化修繕計画補助金で△272万円、社会資本整備総合交付金の道路分で△7,993万9,000円となっております。

同款、同項、7目農林業費国庫補助金で150万円でございます。

これにつきましては、1節農業費国庫補助金ということで、これにつきましても地方創生推進交付金の茶業のリノベーション分でございます。

15款府支出金、2項府補助金、4目農林業費府補助金で901万7,000円でございます。

主なものとして、1節農業費補助金で784万円でございます。そのうち産地パワーアップ事業補助金で共同工場の製茶機械の更新分でございます。761万5,000円を計上しております。

同款、同項、9目災害復旧費府補助金で2,254万4,000円でございます。

1節農林業施設災害復旧費補助金でございます。内訳として、農業用施設の災害復旧費補助金で1,978万4,000円、農地災害復旧費補助金で276万円を計上しております。

15款府支出金、3項委託金、1目総務費委託金で261万5,000円の補正で

ございます。

これにつきましては、3節選挙費委託金ということで、4月8日執行されます京都府知事選挙の委託金でございます。

おめくりいただきまして、19款繰越金、1項繰越金、1目繰越金で1,428万6,000円でございます。

1節前年度繰越金ということで、純繰越金でございます。

21款町債、1項町債、4目土木債で△2,540万円でございます。

1節道路橋りょう債でございまして、過疎対策事業債の門前橋整備事業で△260万円、同じく過疎対策事業債の橋りょう補修事業で△130万円、同じく過疎対策事業債ということで、舗装維持管理事業で△1,450万円でございます。それと、辺地対策事業債で舗装維持管理事業で△700万円でございます。

同款、同項、7目災害復旧費で3,660万円の補正でございます。

1節農林業施設災害復旧債で1,440万円。内訳といたしまして、農業用施設災害復旧債で1,160万円、農地災害復旧事業債で280万円となっております。

それと、2節公共土木施設災害復旧債で2,220万円でございます。そのうち道路災害復旧事業債で1,750万円、河川災害復旧事業債で470万円を計上させていただいております。

続きまして、歳出でございます。

2款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費で563万7,000円の補正でございます。

主なものといたしまして、給与改定に伴う人件費で214万3,000円、あと、11節需用費で155万3,000円でございます。消耗品費で55万3,000円、修繕費で100万円。これにつきましては、海洋センターのプールの配管の修理等でございます。

13節委託料で95万1,000円。植木剪定委託料、これも海洋センターに係る

分でございます。５０万円。あと、電算システムのサポート委託料で３８万１，０００円となっております。

同款、同項、２目企画費で３４６万５，０００円の補正でございます。

主なものとして、１９節負担金補助及び交付金で３３０万円。これにつきましては、和東町地域力推進協議会への負担金でございます。

おめくりいただきまして、２款総務費、４項選挙費、６目京都府知事選挙費で２６１万５，０００円でございます。

主なものが、１１節需用費で６９万２，０００円。

１３節委託料で４３万円。ポスター掲示場の設置委託料。

１６節原材料費で４３万円。これはポスター掲示場等でございます。

先ほど申し上げましたように、４月８日に投開票ということになっております。告示が３月２２日ということになっておりますので、３月分の執行経費を補正で上げさせていただいておるといところでございます。４月に係る分につきましては、新年度予算に計上させていただいております。

おめくりいただきまして、３款民生費、１項社会福祉費、３目老人福祉費で３８１万６，０００円の補正でございます。

主なものが２８節の繰出金で３４１万１，０００円、そのうち介護保険事業勘定への繰出金が２７６万２，０００円となっております。

３款民生費、２項児童福祉費、１目児童福祉費総務費で１６５万２，０００円の補正でございます。

主なものが２０節扶助費で１０８万円。これは乳児医療の分でございます。

同款、同項、３目保育所費で１０３万２，０００円でございます。

主なものが、１１節需用費で８８万４，０００円、そのうち賄い材料費で８１万４，０００円を計上しております。

４款衛生費、１項保健衛生費、４目環境衛生費で８０万円でございます。

19節負担金補助及び交付金でございまして、墓地整備事業補助金、これは台風被害によります湯船地内の墓地に係る分でございます。

4款衛生費、2項清掃費、1目じん芥処理費、93万8,000円でございます。

主なものが、19節負担金補助及び交付金で91万8,000円。相楽東部広域連合への負担金でございます。

次のページをお願い申し上げます。

5款農林業費、1項農業費、3目農業振興費で784万円でございます。

19節負担金補助及び交付金でございまして、主なものが産地パワーアップ事業補助金で761万5,000円。これにつきましては、グリーンハザマの製茶機械の更新に係る分でございます。

同款、同項、6目農業施設管理費で326万円の補正でございます。

主なものが13節委託料で300万円。「お茶の駅和束」調査設計業務委託料ということで、これはグリーンティ和束を核とした施設整備に係るものでございます。

5款農林業費、2項林業費、2目林業振興費、223万5,000円でございます。

主なものが、13節委託料で196万8,000円。これにつきましては、松くい虫の防除委託料でございます。

7款土木費、2項道路橋りょう費、3目道路新設改良費で△1億円でございます。

13節委託料で200万円の減額。橋りょう点検調査業務委託料でございます。

15節工事請負費で△9,800万円となっております。

次のページをお願い申し上げます。

10款災害復旧費、1項農林業施設災害復旧費、1目農業用施設災害復旧費で3,043万7,000円の補正でございます。

15節工事請負費でございまして、農業用施設災害復旧工事費分でございます。

同款、同項、2目農地災害復旧費で552万円の補正でございます。

15節工事請負費でございまして、農地災害復旧工事費に係るものでございます。

10 款災害復旧費、2 項公共土木施設災害復旧費、1 目道路橋りょう施設災害復旧費で4,129万6,000円でございます。

15 節工事請負費でございます。道路橋りょうの災害復旧工事費でございます。

同款、同項、2 目河川災害復旧費で1,080万円の補正でございます。

15 節工事請負費で河川災害復旧工事費になります。

19 ページ以降に給与費明細書をつけさせていただいております。また、お目通し
いただきたいと思っております。

特別会計につきましては、所管課長よりご説明申し上げます。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

福祉課長。

○福祉課長（岡田博之君）

おはようございます。

続きまして、私のほうからは、議案第37号 平成29年度和束町介護保険特別会
計補正予算について説明申し上げます。

議案書のほうをよろしく願いいたします。

議案第37号

平成29年度和束町介護保険特別会計補正予算（第3号）

平成29年度和束町介護保険特別会計補正予算（第3号）は、次に定めるところに
よる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 保険事業勘定の既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,105
万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ6億2,776万2,00
0円とし、介護サービス事業勘定の既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それ
ぞれ29万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ559

万3,000円とする。

- 2 保険事業勘定及び介護サービス事業勘定の歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

平成29年12月19日提出

和東町長 堀 忠雄

めくっていただきまして、第1表 歳入歳出予算補正でございます。

款、補正前の額、補正額、計の順に説明申し上げます。

歳入でございます。

1 款保険料、1億1,359万5,000円、422万3,000円、1億1,781万8,000円。

3 款国庫支出金、1億4,262万6,000円、570万1,000円、1億4,832万7,000円。

4 款支払基金交付金、1億6,104万8,000円、585万2,000円、1億6,690万円。

5 款府支出金、8,955万1,000円、251万2,000円、9,206万3,000円。

7 款繰入金、8,738万8,000円、276万2,000円、9,015万円。

歳入合計、6億671万2,000円、2,105万円、6億2,776万2,000円。

めくっていただきまして、続きまして歳出でございます。歳入と同じように、款、補正前の額、補正額、計の順に申し上げます。

1 款総務費、952万8,000円、15万円、967万8,000円。

2 款保険給付費、5億5,789万9,000円、2,090万円、5億7,879万9,000円。

歳出合計につきましては、歳入合計と同額でございます。

続きまして、予算に関する説明書No.37、平成29年度和束町介護保険特別会計補正予算（第3号）（保険事業勘定）の説明を申し上げます。

総括につきましては省略させていただきまして、5ページ、6ページをお願いいたします。

歳入でございます。

1款保険料、1項介護保険料、1目第1号被保険者保険料、補正額422万3,000円でございます。

これにつきましては、1節現年度分特別徴収保険料307万8,000円、2節現年度分普通徴収保険料114万5,000円でございます。

3款国庫支出金、1項国庫負担金、1目介護給付費負担金、補正額428万円でございます。

これにつきましては、1節現年度分介護給付費負担金を見込んでおります。

3款国庫支出金、2項国庫補助金、1目調整交付金、補正額142万1,000円でございます。

1節現年度分調整交付金であります。

4款支払交付金、1項支払基金交付金、1目介護給付費交付金、585万2,000円の補正額でございます。

これにつきましても、1節現年度分として見込んでおるところでございます。

5款府支出金、1項府負担金、1目介護給付費負担金、251万2,000円の補正でございます。

これにつきましても、1節現年度分の介護給付費負担金を見込んでおるところでございます。

7款繰入金、1項一般会計繰入金、1目介護給付費繰入金、補正額261万2,000円。

1 節介護給付費繰入金、一般会計からの分を見込んでおります。

あわせまして、同項、4 目その他一般会計繰入金、1 5 万円。

1 節事務費等繰入金でございます。

めくっていただきまして、7 ページ、8 ページでございます。

歳出でございます。

1 款総務費、3 項介護認定審査会費、1 目認定調査費等、補正額 1 5 万円でございます。

これにつきましては、調査員の賃金に係る増額をお願いいたします。

2 款保険給付費、1 項介護サービス等諸費、1 目居宅介護サービス給付費、補正額 1, 0 0 0 万円でございます。

1 9 節負担金補助及び交付金で在宅介護サービスに係る負担金の増額でございます。

同款、同項、9 目居宅介護サービス計画給付費、補正額 2 5 0 万円でございます。

1 9 節負担金補助及び交付金で、これにつきましても居宅介護サービスに係るケアマネジャーの費用で 2 5 0 万円見込んでおります。

2 款保険給付費、2 項介護予防サービス等諸経費、1 目介護予防サービス給付費、補正額 8 0 0 万円でございます。

1 9 節負担金補助及び交付金で 8 0 0 万円。従来からの保険給付費の増ということで見込んでおるところでございます。

同款、同項、6 目介護予防住宅改修費、補正額 4 0 万円でございます。

1 9 節負担金補助及び交付金で要支援の方々に係ります段差解消、手すりの取り付け等の保険給付費分の増額でございます。

同款、同項、7 目介護予防サービス計画給付費、補正額 1 0 0 万円でございます。

1 9 節負担金補助及び交付金で要支援の方々に係りますケアマネジャー費用で、1 0 0 万円の増額を見込んでおります。

めくっていただきまして、9 ページ、1 0 ページでございます。

2 款保険給付費、4 項高額介護サービス等費、1 目高額介護サービス費、補正額 100 万円でございます。

1 9 節負担金補助及び交付金で、要介護認定に係ります負担上限を超えた方々に係ります返戻給付の分でございます。

2 款保険給付費、5 項特定入所者介護サービス等費、1 目特定入所者介護サービス費、△200 万円でございます。

1 9 節負担金補助及び交付金で△200 万円でございます。

議案に戻っていただきまして、続きまして、和東町介護保険特別会計補正予算（第3号）の介護サービス事業勘定に係ります説明を申し上げます。

第1表 歳入歳出補正でございます。

歳入でございます。

款、補正前の額、補正額、計の順に申し上げます。

1 款サービス費、258 万円、22 万円、280 万円。

2 款繰入金、272 万円、7 万3,000 円、279 万3,000 円。

歳入合計、530 万円、29 万3,000 円、559 万3,000 円でございます。

1 ページめくっていただきまして、続きまして、歳出でございます。

これにつきましても、款、補正前の額、補正額、計の順に申し上げます。

1 款総務費、451 万5,000 円、7 万3,000 円、458 万8,000 円。

2 款事業費、69 万7,000 円、22 万円、91 万7,000 円。

歳出合計につきましても、歳入合計と同額でございます。

続きまして、予算に関する説明書、平成29年度和東町介護保険特別会計補正予算（第3号）（介護サービス事業勘定）に基づきまして説明申し上げます。

総括は省略させていただきます、5 ページ、6 ページをお願いいたします。

1 款サービス収入、1 目予防給付費収入、1 目居宅支援サービス計画費収入、補正額22 万円でございます。

1 節 居宅支援サービス計画費収入、22万円の増額を見込んでおります。

2 款 繰入金、1 項 一般会計繰入金、1 目 一般会計繰入金、7万3,000円の補正でございます。

1 節 一般会計繰入金であります。

めくっていただきまして、7 ページ、8 ページをお願いいたします。

続きまして、歳出でございます。

1 款 総務費、1 項 総務管理費、1 目 一般管理費、補正額7万3,000円でございます。

これにつきましては、人件費でございます。

2 款 事業費、1 項 居宅介護支援事業費、1 目 居宅介護支援事業費、補正額22万円。

これにつきましては、1 3 節 委託料、介護予防計画委託料22万円の増額でございます。

9 ページ、10 ページにつきましては、給与費明細が載せております。また、お目通しのほうをよろしくお願いいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

税住民課長。

○税住民課長（細井隆則君）

おはようございます。

続きまして、私のほうから、議案第38号につきましてご説明申し上げます。

議案書のほうをよろしくお願いいたします。

議案第38号

平成29年度和束町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

平成29年度和束町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算の補正)

第1条 既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ57万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ6,437万6,000円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

平成29年12月19日提出

和東町長 堀 忠雄

めくっていただきまして、第1表 歳入歳出予算補正でございます。

款、補正前の額、補正額、計の順に申し上げます。

まず、歳入でございます。

3款繰入金、2,416万4,000円、57万6,000円、2,474万円。

歳入合計、6,380万円、57万6,000円、6,437万6,000円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

2款後期高齢者医療広域連合納付金、5,753万円、57万6,000円、5,810万6,000円。

歳出合計は、歳入合計と同じでございます。

続きまして、資料No.38、予算に関する説明書によりましてご説明申し上げます。

1ページから4ページの総括は省略させていただきます、5ページ、6ページをお願いいたします。

まず、歳入でございます。

3款繰入金、1項一般会計繰入金、1目一般会計繰入金、補正額57万6,000円でございます。

内訳といたしまして、2節保険基盤安定繰入金でございます。

めくっていただきまして、歳出でございます。

2 款後期高齢者医療広域連合納付金、1 項後期高齢者医療広域連合納付金、1 目後期高齢者医療広域連合納付金、補正額 5 7 万 6, 0 0 0 円でございます。

1 9 節の負担金補助及び交付金として 5 7 万 6, 0 0 0 円の補正でございます。この補正につきましては、今年度の保険基盤安定負担金が決定されたことによりまして、当初予算編成時よりも増額となっていたため予算補正をお願いするものでございます。

以上、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

これより質疑を行います。

6 番、岡本議員。

○6 番（岡本正意君）

それでは、一般会計の 1 3 ページ、衛生費のじん芥処理費にかかわってですけども、今、年末年始を迎えようとしておりまして、ごみ収集のほうも毎年いろいろとご苦労いただいていると思うんですけども、いわゆるこの間、年末のごみ収集につきましては、年度によりましては通常収集以外にも一定配慮いただいた中での収集量を設けていただくといった年度もありましたけども、今年度につきましては、そのような措置といえますか、いわゆる配っていただいている 2 9 年度版のカレンダーでは特にそういったものはないんですけども、特に変更はないんでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

岡本議員のご質問にお答えさせていただきたいと思います。

今ありましたように、ごみ収集カレンダーというものを配布させていただいておりますので、特別に別の日の設けての収集ということは考えておりません。

○議長（岡田 勇君）

6 番、岡本議員。

○ 6 番（岡本正意君）

それで、一応、このごみ収集カレンダーを逆上って5年分ぐらい振り返って確認を試みたんですけども、大体、燃えるごみにつきましては、年末から年始の収集開始までほぼ1週間というのが通常になっております。あと、プラスチックごみですね、その他プラではなくて容器包装の分ですけども、その分についてが大体11日間であるとか、9日間であるとかですね、そういった傾向が出ております。

それですと、今年度でいいますと、燃えるごみにつきましては、12月28日が最終日になっておりまして、1月4日開始ということで、これは例年とほぼ変わらず1週間になっております。

しかし、プラスチックの関係でいいますと、本年度が12月23日が最終収集というふうになっておりまして、27日がその他プラになっています。ですから、容器包装のプラスチックごみにつきましては、年始の開始が1月6日ということで、ほぼ2週間収集がないという状況が今回の日程になっております。これはこの5年間、平成24年度から振り返っているんですけども、最大幅なんですね。一番あいた期間になっています。

特に年末というのは、いろんな年末準備の関係あったりとか、年末や年始の準備もあったりして、特に容器包装のごみが出やすい時期でもあるんですけども、これは大変あき過ぎではないかというように思うんですけども、その辺いかがですか。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

お答えさせていただきます。

手元のほうにカレンダーを持っておりませんので、比較のほうは、議員のほうからお話をいただいた内容かと思っておりますけども、生ごみにつきましては、悪臭とか水分とか出てきますので、早期の回収という形の中で対応させていただけるかなと思うんで

すけども、プラスチックごみにつきましては、家のほうの事情もございましてしょうけど、早急に腐っていくものではないので、今回、ことしの分につきましては日数の配分の中でそういった事態になったのかというふうに思います。そのあたりよろしくお願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今回こういった通常以外の収集日を設けていただいた経過というのは、以前、住民の方から、やはり年末、大変ごみが出やすいということで、何とか臨時でも、1日でも収集していただけないかという声がありまして、当時の担当課のほうで検討いただいた上で、いわゆるごみ収集車の方も年末のお休みとかある中で申しわけないんですけども、ただ、そういった意味で検討いただいて設けていただいた経過があります。

それでですね、いわゆるプラスチックごみは生ごみと違ってにおわないとか云々ということで、2週間放置してもいいんじゃないか、そういうふうに聞こえるんですけど、ただ、やはり2週間もあくというのは収集業務としては大変問題じゃないかと思うんですよ。

例えば、平成24年度の収集でいいますと、プラスチックごみというのは12月27日が最終になっています。1月5日開始ということで、これは9日間になっているんですけど、この27日というのはいわゆる特別収集になっているんです。通常の収集日というのは22日だったんですね。それでいくと、これこそ2週間あきますから、27日の日に特別な収集日を設けていただいて、9日間に短縮していただいたという経過が既に24年度にさせていただいております。そのときとほぼ同じだけの期間があくわけですよ。ですので、今回もやはりそれだけの期間、住民の皆さんに収集日なしということでやっていただくというのはですね、もう少しやはりまだ検討いただく余地があるんじゃないかと思うんです。

例えば、特別な収集日が設けられないということであれば、ことしは27日がその他プラの同時収集になっているんですね。ですから、その日にいわゆる容器包装の分についても同時に収集していただくということも含めて、今からでもぜひ検討いただけないと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

はい、お答えさせていただきます。

平成24年度の実績の中でどうなっているのか私もわかっておらないんですが、今おっしゃったように、そういった形で対応ができるようであれば、そのあたり一度持ち帰らせていただきまして、検討はさせていただきたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

もちろん生ごみにしても1週間あくわけですから、それもどうかとは思いますが、ただ、やはりプラスチックごみにしても、かなりかさの大きいものが多いですよ。そういったものをたくさん置いたまま新年を迎えるというのも、やはり気持ち的にも、また環境的にも余りよくないことだと思うんです。ですので、今、課長のほうから一定検討いただけるという答弁をいただきましたので、きょうが19日ですので、あと1週間ほどの期間ですから、ぜひやっていただけるのであれば早期に検討いただいて、住民の皆さんに周知していただくということがないと、もう出せへんというふうに思っておられると思うんですよ。ですので、ぜひ直ちに検討いただいて、27日のその他プラのときの収集に合わせて、最低でもそれはぜひ実施していただけるようにしていただきたいと思うんですけども、その辺もう一度お願いできますか。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

はい、お答えさせていただきます。

既にごみ収集カレンダー、もう配布させていただきまして、臨時的に通常のプラスチックごみを回収するための周知ができるのか、また、あと、業者のほうにつきましても、プラスチックの再生利用できるリサイクルプラスチックと、それから別のプラスチックごみのところ収集につきまして2回手間になるかわかりませんので、そのあたり、業者もございますので、とりあえず検討ということでもよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（岡田 勇君）

1番、岡田議員。

○1番（岡田泰正君）

15ページのほうをお願いします。

一般会計補正予算のページなんですけども、この中で土木費が2億400万円、補正前の金額が上がっておりまして、その中で約半額の1億円という金額が減額補正されております。この1億円の減額補正されたその背景はどのような形になっておったのかお知らせいただきたいと思ひます。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

今の岡田議員のご質問にお答えさせていただきます。

当初2億4,067万円の当初予算を上げておりました。結果、1億円の減額をさせていただくという形になっております。これにつきましては、過年度等々の事業量等も含めまして、政治的な判断も含めまして、1億円の減額をとっております。

細かいことを言いますと、今までは過去3年ぐらい前までは、通常国会で開かれた

中での予算が出されます。その後、特別国会で補正予算が組まれます。その中で国庫補助事業の補正があった時代がございました。そういうのがここ数年ございません。

一番極端な例でいいますと、東北震災の後については、そういうような補正がなかなか回ってないというのが現実でございます。その関係で、当初予算の段階では、今年度でいいますと、28年12月に要望を当初出します。その後、その要望につきまして年明け早々から議論がなされまして、国のほうから交付金の決定が来ますのが大体29年6月になります。この段階で本来上げております2億4,000万円に対して約65%が交付金になりますので、これに合わせた事業を組みたいということで、再編をかけます。ことしでいいますと、門前橋に6,000万円、山口線に1,000万円、舗装に100万円という内定を受けております。この補正後、門前橋につきましては、限度額ということで、これだけの工事をしなさいというような状況で国のほうから指示額が出ます。これに対しまして、うちのほうとしては工事の進捗を合わせまして、工事の組みかえをさせていただいております。

本来であれば9月の補正の段階で1億円落としておけばよろしいんですけども、いやいやまだまだ経済対策に対しての補正があるかということもございますので、この段階では減額補正を考えとし置いておきました。ただ、12月の議会でございます。特別国会等も終わりました、今年度の補正額はないということが確定しましたので、今回、事業費を1億円減額させていただいております。

ただ、この1億円につきましては、なぜ1億円減額したかという内容になるんですけども、当初の申請額が国費65%で申請を出しております。これが2億467万円に対して65%の補助額でございます。それに対しまして、最終的に来ましたお金に対して国費を約65%の分で充て込んだところ、門前橋で事業費4,000万円、山口線で2,300万円、それから長寿命化の橋で1,000万円、舗装で100万円という充て込みになりまして、その分の減額補正をかけさせていただいた次第でございます。

通常国会が開けましても、今度は30年度予算の議論になりますので、今後、国費の増額は無いと。ただ、もう1点、府内で、ある程度、事業の進捗によりまして事業困難というところがありましたら、その分の少量の予算が回ってくるということも考えられることもあるんですけども、ほぼ、ことしはそれもないという状況が確認されております。その関係で今回大きなお金になりますけども、1億円減額をしております。

通常ですと、去年までは30年の第1回定例会の補正、もしくはその後の補正で減額していたものを、今回は早い時期に事業費の整理をさせていただいているような次第でございます。

○議長（岡田 勇君）

1番、岡田議員。

○1番（岡田泰正君）

今、説明いただきまして、結構厳しい予算であるなというふうな感触を持ったわけなんですけども、それでですね、こういった減額されたことによりまして、今後の和束町のインフラの整備は、計画どおり耐震の問題とか、あるいは道路整備、あるいは道路拡張、これについての計画を持っておられると思うんですけども、これについて変更はやっぱりしていかならん。お金がなくて事業がおくれますから、これに対する懸念がされるわけなんですけれども、その計画の変更等についての見通しについてお願いしたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

はい、お答えいたします。

今の事情をそのままいきますと、確かに議員がおっしゃられるとおりに、事業がおくれているというのが現実でございます。

29年度につきましては、例年、交付金事業を中心に事業を策定しておりました。
30年度につきましては、一部を補助金事業に振りかえたいということで、京都府と調整に入っております。ですので、今後の事業につきましては交付金事業、プラスアルファ補助金事業ということで事業を組みかえていきたいと思っております。これにつきましては、近畿整備局のほうとも話ができていまして、今回、一橋りょうを検討するということで話が挙がっております。これは来年6月にならないと明確な答えはもらえませんが、一応、30年度につきましては補助事業のほうで事業を変えていきたいということで、事業の見直しをかけております。

ただ、現実、今年度につきましてはかなり厳しい交付金予算でございましたので、若干、工事のおくれについては、ご指摘のとおりおくれおけるのが現実でございます。

○議長（岡田 勇君）

1番、岡田議員。

○1番（岡田泰正君）

今まで交付金事業から、あるいは交付金事業から二本立ての形で補助金をとっていききたいということですが、それですと、社会資本整備計画表に基づいて今度は事業計画をするわけですから、それに対して補助金の申請をすれば、その金額がおりてくるというふうに理解していいんですか。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

はい、お答えいたします。

基本的には、おおむねそういう内容で結構でございます。

ただ、補助金事業ですので、先ほど説明しましたように、和束町における事業箇所の配分ができなくなります。補助金事業になりますので、例えば、A橋りょうをかけかえるとするとすれば、A橋りょうのみの補助金になりますので、そこで若干事業費

が調整かけてほかのところに戻すというような細かいことができなくなるのが現実でございませう。そこにつきましても、今後、京都府並びに近畿整備局と協議を行いながら、できる限り事業におくれがないよう進めたいと思っておりますので、ご理解のほうをよろしく願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

1 番、岡田議員。

○1 番（岡田泰正君）

はい、わかりました。

ただしですね、いろんな調査機関で道路橋りょう等に関する整備について発表があるわけなんですけども、今後50年間で大体27兆円ぐらい必要であろうと。それを地方の町村に戻すと年間1億円5,000万円ぐらいの金額が必要である。ましてや、今みたいな金額でやっておられると非常に後々遺恨を残すような、あるいは緊急を要するような事態が起こる可能性も出てくると思うんです。だから、それについてやはり国のほうもいろいろと働きかけていただきたいんですけども、地方創生と言いながら、国とか府は地方創生の名のもとに交付金をいただいているわけなんですけども、こういった減額をされるということは、地方創生に対してマイナスの方向に向いているんじゃないかと、このように私、考えるんですけども、逆行しているんじゃないかと思うわけなんですけども、その点について町長はどのようにお考えなんですか。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えいたします。

今もご質問にもありましたように、国の流れは補助金の制度から交付金に移りました。その趣旨は何かというたら、それぞれの市町村、末端自治体のいわゆる裁量も入れられる。いわゆる幅広く取り組めると、こういうプラスがありました。ところが、

この交付金は、ご案内のとおり、始まってから東北大震災、九州の震災とか、大きな震災がありました。社会資本整備交付金そのものの枠組みがふえてないと、絶対額がふえてないという国の予算状況であります。そして、割り当てというのは非常に厳しい。そこから総額がまだ落とされて災害に回ると。このようで、今、自治体はそれぞれ国において社会資本整備交付金の増額というのがご案内のとおり強く要請をしているところでもあります。今回見ていると非常に厳しいわけでもあります。

ところが、厳しいので、交付金事業として和東町も非常に道路とか橋りょうとか、それを充て込んで今までやってまいりました。ところが、割り当てが少ない。プラスは、例えば門前橋から山口線へ振り分けるという柔軟性ができますが、これでは進捗がおくれると。こういうことで30年度から一部補助金を入れてやっていくと、この二本立てですね。そのことでやっていく。

補助金は箇所指定がありますので、融通がきかないという面があります。しかし、和東町は近畿整備局とも、京都府とも協議をいたしました。そして、その二本立てでいって、そして早期に仕上げていくと、こういう方向で今、進めているわけでもあります。そういうことで今、答弁が所管課からも課長が答弁している内容であります。これが今の時代の状況であるわけでもあります。

これを大きく、例えば補助金にしていこうということであってもですね、積極的に国のほうは補助金制度のもとに戻すという方向にはありません。やっぱり交付金事業の維持であります。

うちの場合は、遅くなるからやむを得ずこういうことで要請をしながらやっておると。そして、協議しながらやっていると。これはこういうことでもあります。将来もこの交付金は補助金に変わるということは私はないだろうと。ないというよりも、まだ近々にはそういうことはなかなかいかない。それよりも社会資本整備交付金の増額をこれからも強く要請してまいりたいと、このように思っております。

当然、京都府の町村会の大きな国に対しての要望事項も、また、全国町村会の要望

事項に社会資本整備交付金を増額せいというのは項目に入っているわけでありまして。そういう状況でありますので、こういう時代の流れの中で有効な事業活用して、そして和東町の計画の進捗を早めていきたいと、このように思っておりますので、ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

質疑の途中ですが、ただいまから午前10時45分まで休憩します。

休憩（午前10時31分～午前10時45分）

○議長（岡田 勇君）

休憩前に引き続き質疑を続けます。

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

それでは、先ほどごみ収集の件についてお聞きましたけども、一応、課長のほうから検討するということですが、町長、やはりこれは毎日の家庭にとっては大変大事な問題でありまして、これから年末の準備や年始の準備とか本格化していくという中で、どうしてもごみというのは出やすい時期です。特に、これはよくないとは思いますが、容器包装が大変多いんですね。ちょっと買い物ただけでもすごく出してしまうという状況が今の状況の中ではどうしても出てくるという問題があります。

やはりどんどんどんそういうものがたまって行って、23日以降、収集がないとなればですね、大変長い期間にわかってそういったごみ袋を放置したままというか、放置はしませんけども、やはり置いたまま年末年始を迎えるということになります。ですので、最低限でも27日のその他プラのときには、ごみ収集の方には大変申しわけないんですけども、ほかにもし日程がとれないということであれば、ぜひそこは配慮していただきたいなと思うんですけども、その辺、町長の答弁をいただけますか。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えいたします。

先ほど課長のほうからも答弁させていただいておりますように、そうした収集業務については、カレンダーに載せて、ふつうの収集業務をお知らせしているわけでありまして。そして、ご質問もありますように、そのほかの事情によって特別に収集しなければならないということというのも、過去にもそうした例があるようでございますので、今の事情というものを十分頭に入れながら検討。また、これは和束町だけではなくに隣接する関係町村とも関係課長が寄って、その辺の対応というのをことしも、今もご質問がありましたように、非常に長い時期だということでもありますので、先ほど課長が答弁させていただきましたように、検討させていただくと、こういうことでもあります。

趣旨としては、私も、ご質問いただいておりますように、放置されたり、また住民の不安があるというのは、これは年始当初から余りよろしくない話だろうと思います。今のご質問をいただいている内容の趣旨も生かしながら、課長のほうでまた検討ということで進めてまいりたいと思いますので、ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

検討してできなかったというよりもですね、やっていただけるように、ぜひ検討いただきたいと思います。

それでは、ごみ収集といいますか、ごみの関係でですね、いわゆるクリーンセンターの稼働実施が日々迫っております、ことしも年度もあと数カ月という中で、いよいよ迫ってきている状況があると思うんですけども、やはりどのような選択肢をとられるにしても、やはり一定そろそろ関係する議会であるとか、また、住民の皆さんに一定の方向を示すべき時期だと思うんですね。全く今までのところは具体的など

うするという方向は示されていないわけですが、そこは今現時点でどのような状況なのか、その辺どうでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えさせていただきます。

焼却施設につきましては、国の補助金を入れて、そして事業を開始しているわけです。施設そのものは国の補助金の適化法に抵触する事業であるわけですから、そうした事業の運営に進めていくというのが、これは基本的であります。

ところが、地域の事情、和東町の事情、地区の事情によって20年間というのは協定で結ばせていただいていた。当然、施設は焼却可能な施設で、運営可能な施設でありますので、基本はやはり地域にお願いすると、こういうことになるのがもとであります。

ところが、今までの20年間の住民の意向もあるわけですから、これを大事にしていかなきゃならないわけで、そういうことで、今、質問がありましたように、当然進めていきますのは住民の理解をいただくと、こういうことでもあります。

ところが、今、地域の実情もあるわけでありまして、こうしたタイミングを見ながら進めているわけでありまして、とにかく施設のある地元が一番さきに進めていかなきゃならんと、こういうことで、この3町村のある和東町にあるわけですから、和東町は既にそういった地域とも考え方等について進めているわけでありまして、年を明けることによって、さらに一步前進させていきたいということを東部じん芥のほうでも答弁させていただいているところであります。そういう方向で進めてまいりたいと、このように思っているところでありますので、ご理解のほうをよろしく願います。

○議長（岡田 勇君）

6 番、岡本議員。

○6 番（岡本正意君）

それでは、前にもその点については伺いましたけども、どのような形になるのかは別にしましても、いわゆる選択肢として、一定、有識者会議ですか、懇談会というところから報告がありましたのも1年半ほど前の話でありまして、それを受けて連合議会の議員さんにも全協を開いていただいております。それがあつたのも1年以上たっております。

その間、連合議会でも、どうするのかといったようなことが繰り返し議論されているようですけども、やはりこれは地元の方の理解ということはもちろん大事ですし、そこの関係抜きに進まないわけですけども、ただ、ごみの収集であるとか、こういったものについては全ての住民の皆さんがかかわる問題です。方向性によっては大変困難になってしまうとか、いろんなことが起こってくるわけで、地元の方だけの問題じゃなくて、全ての住民の方のごみをどうするかということにつながりますから、やはり一定のどうしていくのかという方向性が示されないと、どうなのかと思うんですよ。

それで、今、年を越して一定前に進めたいという話が連合議会でも話があつたということがありましたけども、やはりもうそろそろ、いつまでに各議会にも、また住民の皆さんにもこういった方向で考えているといったようなめどというものも持って進めていただいているとは思いますが、その辺の一定の方向性を出していただける時期というのは、めどはあるんでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えいたします。

先ほど考え方を答弁させていただいたんですが、基本的には、さらにもうお願いしていくということであるわけなんです。

ご案内のとおり、これは非常に難しい問題であろうと思います。いつからスタートしても問題の解決の当たるところは同じだろうと。だから、最悪の状態というのはやっぱりあるわけでありまして。お願いをし続けていかなきゃならんときで、とまることもあるわけでありまして。協定は期限が決まっていますから。

しかし、今、言われましたように、ごみについては市町村、それぞれの末端自治体の搬送によったら、これは責務であります。その責務の行使は、その処理が話し合いでつかないと。話し合いの最中やということになれば、その最中の中での処理の仕方があります。そのときの緊急避難として、いわゆる西部じん芥にお願いできるのか、また、民間でお願いするのか、この辺があるわけでありまして。そういったところの十分方法を見据えて進めると。

いわゆる今、心配しておられるのが、もう話がつかなかったら、そんで終わってしまうという前提のもとに今ご質問いただいておりますが、それはそれとして、先ほどの搬送もありますので、施設はそれで終わったと。終われば今までの補助金を返さなきゃならんわけですから、そんなもんじゃないわけで、これはやっぱりお願いしていかなくちゃならない。しかし、相手のある話です。相手のある話がなかったら、そんで終わるのか。そうじゃない。収集はできないのか。できない。これは市町村の責務があるわけですから、当然、収集業務を続けていく。そして、西部は簡単に入れてくれるか。入れてくれない。入れてくれないときは民間に緊急避難処置をとるという最悪の状態もあると。そうし続けてお願いをし続けていく、こういう方向が一番はっきりした話であろうというように思っておりますので、ご理解のほうをよろしく申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今、言われたことは、それはそうだと思うんですけども、ただ、やはり今、言われ

たように、いわゆるあの施設そのものは町長がよく言われるように、20年たったら壊れるとか、使えなくなるとかいうもんじゃなくて、使えるもんだというふうでありますけども、ただ、やはり住民の皆さんとのいわゆる協定では、20年というふうに決めて、特に、例えば協定の中にも、その後、随時協力するとかいうことそのものも多分書いてないと思うんですよね。ですから、一定20年という期限はあると。

仮に例えばほかの西部じん芥であろうが、民間であろうがお願いするにしても、じゃあ、もうだめだったから、あしたからお願いしますというわけにはいかないわけですよ。一定の期間の話し合いとか協議があって、向こうが受け入れていただけるかどうか、向こうのつもりというものもあるわけですから、一定どこかで区切って話を進めていかないと、それこそやはりごみの行きどころがなくなってしまうという事態になる可能性というのがあるわけですから、そういう点で、いつまでにとか、例えば1年前までなのか、一定そういう区切りというものは持つておられると思うんです。10日前とか1カ月前までねばって、それでだめだったらお願いしますなんていうことは多分ないと思うんです。だから、その辺もう少しどの程度をめぐりにそういう話を進めようとされているのか、そこはわかりませんか。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

今の段階では速やかにやりたいと、このように思っております。東部でも新しい年から積極的に開始していかなきゃならんと、このように思っております。

それと、収集業務についても、見積もりをとっていく段階でも方法が違ってくると思うんです。いわゆる手段を入れて見積もりをとっていかなきゃならんとというように思っております。そういうことが速やかに年明けからやっていかなきゃならんと、このように思っております。それと、これも東部じん芥でそのように答弁させていただいております。

そして、施設にも、先ほども今回の議会の中でも修理等に入れました。最小限の修理は入れさせてもらっておりますけども、補助金が入っておりますので、やっぱりこれは地元には20年と終わりましたが、新たな問題として続けさせていただきたい。お願いはしていく必要があるというように思っております。しかし、相手のある話ですから、相手のなしに強引にやるというわけにはいかないと。この前提のもとに進めてまいりたい。速やかにこうしたことを全部進めていきたい。今からもやらなきゃならんです。ちょうど今は12月でございますので、もう既に当初から進めていくよと、こういう考え方でやっておりますので、ご理解のほどよろしく申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

いずれにしましても、大変そういう答弁がここ1年半ほどずっと同じだと思ってるんです、連合議会でもここでも。ですので、やはりそういった点で、そういう一定具体的な動きがなければならぬ時期だと、どういうふうにしてもですよ。そこはぜひ、今、速やかにという話がありましたけども、ぜひ見える形でしていただきたいと、これは思います。

次に、10ページ、今回、企画費の中で空き家バンクの開設業務委託料として6万円上げられておりますけども、一定委員会のほうでも今後の空き家バンクの開設に向けての動きというのは報告はいただいたんですけども、この予算に絡めて、もう少し具体的にどういうふうに進められていくのか説明いただきたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

空き家バンクについてでございますが、今現在、空き家バンクというものはインタ

インターネット上で開かれた和東町内の空き家の現行の状況を公表するものです。インターネットのほうにそういうページを開設するんですが、そのための開設要綱というものを、今、事務仕事として進めております。

そこに載る物件につきましては、各区長さんのほうと3年前、27年3月に調査を行いました。その結果をもとに、そのときに空き家になっていた物件について現行どうなっているか、また、新たな物件が見つまっているかどうかということの意見交換ということは今現在やっているところでございまして、ほぼ全ての区と意見交換が終わったところでございます。

その空き家バンクについては、この6万円の事業というのですね、そこに空き家バンクになった物件を外の方が利用したいというときに、そのマッチングについて不動産業者に仲介をお願いしようというふうに考えております。その不動産業者というのは和東町内にはないものですから、そこで宅建協会のほうと協定を結びまして、仲介してくださる不動産業者のほうを紹介していただくと。その協定のほうも、空き家バンクの設置要綱と同時並行で、今、進めておるところでございまして。こちらも本当に早期に協定を結びたいと思っております。

この6万円というの、不動産業界の内規でですね、1回の交通費が3,000円というふうに決まっております、それを20回分、物件の鑑定ですね、大体これぐらいだったら幾らぐらいの家賃になるとか、また実際にそういう希望者がいらっしまった場合のマッチングに際しての旅費、そういったものを約20回の分のお金で6万円を見てございまして、その上の需用費9万円というのものもあるんですけども、こちらは空き家バンクが開設された際の町民への周知のペーパーとかいうことを主に想定している需用費を積みさせていただきまして、この合計15万円ということで少額ではあるんですけども、空き家バンクについての予算ということで今回お願いしているところでございます。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

これは、今、早期にとということですが、いわゆる来年度当初からスタートできるということ考えていいのかどうかということとですね、それと、この間、湯船につきましては京都府の地域指定もありまして、それを受けての財政援助等がある中で、一定の改修費用であるといったものもあるということなんですけども、今回のこの空き家バンクにつきましては、湯船だけじゃなくて全町的な部分だというように理解するんですけども、空き家バンクというのは、もちろんそういう物件をインターネット上等で紹介をして、それに興味を持たれた方がアクセスして、連絡があって、今、言われたような段取りを踏まえてどうするかという話が流れですけども、ただ、やはりそれだけじゃなくて、今、言ったような空き家の改修費用であるとか、また、いろいろな意味での片づけであるとか、そういったものの補助も含めて制度的に確立しないと、なかなか実際のやりとりというのが進んでいかないと思うんですね。その辺の段取りを含めて来年4月以降のところでの開設というのはできるんでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えさせていただきます。

まず、移住につきましても考え方なんですけども、空き家バンクというものと移住促進特区というものは、今、二つ離して考えていただければと思います。

この移住促進特区というのは京都府の制度でございまして、この特区に指定されれば京都府の補助金180万円上限というものの改修費用が移住者に補助が行くという制度になっておりまして、現在、湯船区のみが特区になっております。

区長周りを重ねまして、その特区に参入するかどうかの区の意見を、今、伺ってい

るところなんですけども、これにつきましては、どこも特区というところまで踏み込んだ形での参入というのは考えてないというところが本当にほぼ全員の意見になっているのが現状でございます。

そういうところもございますので、空き家バンクという公の検索システムというのを構築するのはマストでやっていきたいと思っているんですけども、京都府の制度である移住促進特区に全区をしていくかというところ、実際の区長の意見を聞いたところではなかなか難しいのではないかとというふうに考えております。

とはいってしましても、町としましては、人口減少という状況でございますので、それをどうにかしていかなきゃいけないという問題意識もありますし、府の制度の特区というのは正直難しいかもしれませんが、町独自の制度としまして来年度から制度が構築できるように、この1月、2月、3月で当初予算の議論も含めまして制度構築を進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今のお話でいいますと、当初、この間の議論の中では、できれば全町を府の特区に指定できるように働きかけたいという話でしたけども、ただ、今のお話では、区の方ではそういう方向には消極的だということで、指定は難しいという話だったと思います。

今、言われたように、そうだからといって、じゃあ、湯船以外のところでは取り扱わないというわけにもいかないということですので、来年度に向けて全町の空き家バンクということで努力していただくという答弁をいただいたんですけども、その場合にやはり今現在特区として湯船が指定されて、そこでさっき言われたような一定の財政援助を受けてるという今の仕組みの水準ですね、それと最低限同じ水準の補助制度

であるとか、制度はやっぱり必要だというふうに思うんですけど、それはそういうことで考えてよろしいですか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

お答えいたします。

まだ、こういった補助制度があるのかというのは明言はできないんですけども、今の府の制度という180万円というものの内訳というのは、180万円のうち半分は府の補助、半分は町の負担という形で、90万円ずつの財源振り分けになっておるんですけども、1つの考え方としましては、府のものが受けられないけども、町の分の負担分は移住者の方に補助できるというふうな方法も1つの案かなというふうに思っております。

そのほかの案も含めまして、湯船は180万円という手厚い補助が受けれる、それは府の支援も受けて。ただ、特区になってないその他の地域でも、最低限、町の支援というのは受けられるというふうにしまして、町としても人口減に歯どめをかけるための施策としまして移住対策というのを進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

5番、井上武津男議員。

○5番（井上武津男君）

それでは、私のほうから1、2点お聞きしたいと思います。

10ページの総務費の中で、一般管理費で11節の需用費で修繕費というのがございます。この修繕費の内訳を少しお聞きしたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

総務課長。

○総務課長（中嶋浩喜君）

はい、お答えいたします。

今回、修繕費100万円を上げさせていただきましたのは、海洋センターに係る分でございます。以前にも報告させていただいたかと思えますけれども、海洋センターのプールの配管でございますけれども、やはり経年劣化によりまして老朽化しておりまして、漏水等が懸念されるということでございます。ことしのシーズンにつきましては応急処置的な形で対策を講じまして、オープンさせていただいたということでございますけれども、やはり次年度の開設に向けまして、一定、本格的な修繕が必要であるということで今回計上させていただいたというところでございます。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

その海洋センターなんですけれども、この前に屋根の修繕についてありましたけども、その点ではもう終わっているのでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

総務課長。

○総務課長（中嶋浩喜君）

はい、お答えいたします。

議員ご質問のとおり、プールの上屋テントにつきましては、サルの被害等によりまして非常に甚大な被害を受けたというところでございます。これにつきましては、一定、専門業者の見積もり等も徴しまして、あと、保険も入っておりますので、保険の申請等の手続も進めておるというところでございます。

ただ、非常に金額が高額になると。何千万円ということでございます。そういったこともございまして、これにつきましては新年度予算に計上させていただくことで、

今、進めておるといところでございます。何分にも海洋センターにつきましては、やはり設置から相当年数経過しておるといところでございまして、さまざまところに経年劣化による影響が出ておるといところでございます。

ただ、やはり和東町での社会体育施設として非常に重要な施設であるといこととでございまして、これからも維持管理に努めてまいりたいと思っておるといところでございます。

以上でございます。

○議長（岡田 勇君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

今、いろんなどころにあっちこちから修繕したり改装していかなきゃならないといところが出てきていますけれども、根本的にいわゆる大改造を行うのは来年以降になるということなんではないかな。

○議長（岡田 勇君）

総務課長。

○総務課長（中嶋浩喜君）

はい、お答えいたします。

大規模な改修という形で、当然、施行できればいいかなと思っておるといところではございますけれども、やはりプールは夏季に使わなくてはならないといことと、あと、アリーナにつきましては、やはり通年利用していただいと。また、中学校も使用していただいと。そういった影響もございまして、パーツの修繕という形で施設を維持してまいりたいと担当のほうで思っておるといところでございます。

以上でございます。

○議長（岡田 勇君）

5 番、井上議員。

○5 番（井上武津男君）

その意味では、今回の修繕費というのはいわゆる水道関係とか、それだけの修繕費であって、それ以外の全般的なものではないということですね。わかりました。

次に、16 ページの農業振興費で負担金補助及び交付金で治山パワーアップ事業補助金、これはいわゆるグリーンハザマの費用というふうに言われてますけれども、どのような形のもので、どのようなものを利用されようとしているのかお聞きしたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

はい、お答えさせていただきます。

この産地パワーアップ事業補助金でございますけれども、和東町立製茶工場、今ありましたようにグリーンハザマの建設が平成8年の農林造成事業で施設を整備したわけでございます。平成8年ですので、21年経過いたしまして、老朽化していった中で、葉打ち機と第1粗揉というお茶の機械を今回入れかえるということございまして、補助金につきましては、事業の整備につきましては、その当時は町でやっていたんですけれども、それ以後の整備については運営主体でやってくださいということございまして、東農事実行組合が補助を受けて今回入れかえられるということでございます。

○議長（岡田 勇君）

5 番、井上議員。

○5 番（井上武津男君）

それは個人でなされているということですね。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

個人といいますか、任意組合ですけども、東農事実行組合で行われるということでございます。

○議長（岡田 勇君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

今、その農業組合は何人ほど組合員がおられますでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

はい、お答えさせていただきます。

現在11名の受益ということになっております。

○議長（岡田 勇君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

町長、このことでお聞きしたいんですけど、過去にこういう産地用の農家の補助金というのがいろいろあったと思うんです。例えば、お茶の機械なんかでもかなり老朽化してきていますので、これからいろいろなところでこういう方で住民の方がこの事業の補助金というものを受けたいと考えられることがあると思うんですけども、この点についてどのように考えていかれるんでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えいたします。

今回のこの補助というのは、この字とおりでございますが、産地のパワーアップと

いうところに焦点を当てているわけでありませう。

それは和東町はどういうお茶の状況にあるかということですが、1つは、流れは大きくてん茶に流れております。これが75から80%がてん茶へ流れてきました。そしたら、煎茶のまちですが、煎茶でやっていこうとされる農家も存在いたします。そして、各家では、その規模というのは、工場を持たない農家が多い。そうなるとう、これから荒れてくる、これがあります。

それと、もう1つは後継者が育っているかという問題がありますから、後継者のない家庭には煎茶をやっていただくというのをオープンにしていかなきゃならない。いわゆる就農される方ですね。そのときに一番大事なのは、工場があるかないか。畑は用意できましても、畑はしますよといっても工場がない。先ほど課長が言いましたように、そのときにできるのは、民間は共同工場がたくさんありますが、町がかかわってきました工場というのは、JAの工場がグリーン工房いうのがあります。それと、今、ハザマがあります。そういったところをこれから就農をやろうとされる方の工場として、やっぱり産地のパワーをアップする、維持する、こういう拠点にしていこうことが私は大事と思っております。

そういう意味で、煎茶の機械を古くなってきたものは改良していこうと。とにかく、単なる機械の補助金というのは、今、申されましたように、なかなか国の補助金も難しいわけですね。目的を持って申請しないといけない。その目的は何かというたら、和東町の農業を将来も維持し得る。煎茶の本場が維持し得る。そして就労対策もきちっとなると。そして若い人が畑を取得しやすい。そのためには、やっぱりきちっと揉むところはありますよ。こういうことによって産地をさらにパワーアップし、若い人の後継者対策、そして、新しく農業をされる。荒廃地を防ぐためにも、よそから入ってきて農業をされる。そして、揉むところについては、ここ、ここにありますよ。こういうことを構築していかないと、和東町の今後の農業を維持するのは難しいと思いません。

大体てん茶では流れてきましたけど、煎茶の維持というのは、各家で煎茶工場がなくなってきたております。こういった実態にある中で、唯一こうして残していこうというところは、やはり私は、国のそういったもののにのせて援助していくべきだというふうに思っておりますので、そういうことをご理解いただきたい。

いわゆる、そういうまさに就農される方の活動の拠点にもなれるように和東町としたら、こういった関係のあるところの工場については積極的に指導も入れたいなど。こういうことで産地パワーアップ事業を入れさせていただいたと、こういうことをご理解いただきたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

5番、井上議員。

○5番（井上武津男君）

今、伺いましたところ、いわゆる地域産業を支えるために産地パワーアップ事業補助というものを強力的に後押ししていくという町長のお答えをいただきました。そういう意味では、ぜひこういうものを後押ししていただきたいと、このように考えて私の質問を終わります。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

先ほど空き家バンクの関係で一定の方向性の話が出ましたけども、やはり同じ移住を求める方のいわゆるそういう扱いという部分で差があってはあかんと思うんですね。ですから、京都府のお金ですか、町のお金ですかは別にしましても、それは移住者にとっては余り関係ない話ですので、やはり同じ空き家バンクとしてちゃんとするのであれば、一定どんな条件もそろえていただくということは大変大事だと思いますので、そこはぜひそれをお願いしたいというふうに思います。

次にですね、先ほど海洋センターの話が出ましたので、あれなんですけども、委員

会でも話が出ておりましたが、その中でこの間、利用者のアンケートをとられて、それに基づいて、今後、運営改善等にもつなげていきたいというお話をいただいておりますけれども、どのような形で具体的に今の運営方法から変えていこうという方向があるかどうか、その辺は今あるんでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

総務課長。

○総務課長（中嶋浩喜君）

はい、お答えいたします。

今年度、アンケートをとらせていただきました。このアンケートの意図でございますけれども、先ほどもご質問ございましたように、プールの上屋が非常に破損したということで、今シーズンにつきましては上屋なしで実施したというところでございます。それに対してのご意見を伺ったというところであります。結果は、やはり上屋テントを設置してほしいという意見が多数ということでございました。

その他利用料金、あるいは開設時間、開設日、これはプールに限ってでございますけれども、お聞きさせていただきました。おおむね現状の状態を肯定していただいた意見が多数であったという認識でございます。

プールにつきましては、この結果を踏まえまして、先ほど申し上げましたように、上屋テントを修繕して利用していきたいという形で今は計画を持っておるところでございます。実際の運用につきましては、現時点では具体的な案というものは有しておらないというところでございます。ただ、やはり高額な費用を使って修繕した以上につきましては、有意義な活用をしていかなければならないという認識は持つておるところでございます。アリーナも含めた形で、やはり海洋センター、これにつきましては町外の利用も非常に多いということでございますので、町外との交流施設の位置づけもあるということでございますので、そういった観点を踏まえまして、今後またさらに具体的な検討をしてまいりたいと思っておりますのでございます。

以上でございます。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今、海洋センターのとりあえず上屋テントのほうを優先して改修したいということですが、やはり町内でいえば大変貴重なスポーツ施設ということもありますので、以前はいわゆるトレーニングルームというように書いてあるぐらいですから、一定そういうトレーニングをしていくといった機能はもともとは持っておられたんじゃないかというように思うんですけども、十分それも今、果たせてないという状況があります。ですので、これを機会に、ぜひスポーツ施設としてのあり方というものをいろんな方から意見も聞いていただいて、皆さん多くの方が利用できるように改修をしていただくということで、これは強く要望しておきたいというふうに思います。

最後にですね、介護保険の関係なんですけどもね、先日の一般質問で町長の答弁ではですね、次期の介護保険料につきまして、基準額にして月額250円程度の値上げは避けられないという話があったと思いますけども、そうなりますと、次期の基準額というのは当然6,000円を超えてくるというふうに思うんですけど、この辺、そういうことだということでもう一度確認をしたいのとですね、ただ、委員会のほうでは課長から保険料の見通しについてお聞きしたときには、町長がこの前の答弁で言われた額よりももう少し小幅な値上げになるというお話だったというふうに思うんですけどもね、あれから特に大きく日にちもたっておりませんが、それはどちらが正しいのか、それも含めて、確認の意味も含めてですけども、答弁いただきたいと思えます。

○議長（岡田 勇君）

福祉課長。

○福祉課長（岡田博之君）

お答えさせていただきます。

まず、町長の答弁でございますが、介護保険の納めていただきます第1号被保険者の負担額の話でございます。22%から23%になると。これを換算して、仮に1%上がるとすれば、その費用については約250円になるんだという答弁だったと思います。

私のほうですけれども、23%の計算はしておりましたが、実際、介護給付費、特に今回の補正でもお願いしております居宅に係ります介護サービス費用でございます。平成29年度の10月、これは委員会があったときの報告でございますが、平均1,620万円、月額1,620万円ぐらいの金額で推移しておりました。しかしながら、11月、12月9日に請求が来た金額でございますが、1,930万円ということで、既に平均を300万円上回っております。これらを試算しますと、やはり町長が答弁しましたように、250円程度引き上げざるを得ないという状況でございますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

ということは、前委員会での答弁というのは正しくなかったということですよ。だから、そのときも十分わかった答弁だと思うんですね。

わからないですか。そんなことないと思うんですよ。実際に23%で話をしていたわけですから、ですから、その後、急激にそういった250円というふうに上がったということかもしれませんけれども、そうすると、250円が正しいということだと思うんですね。ということは6,000円をやはり超えてくると。今でも5,950円ですから、単純に言うと6,200円になるということです。

一般質問でも指摘しましたけれども、普通徴収の納付率というのは平均して80%前後です。悪いときは70%前半のときもありました。要は、2割が年度内には払い切

れていないというのが実態です。こういった現状を町としてどう考えているのかということなんですよ。

今でも2割の人が払い切れてないような保険料をまだ上げますというのはですね、より払い切れない状況がふえていくということは十分想定されると思うんですね。課長、値上げがいいかどうかは別にしてもですよ、今の保険料の徴収の状況から考えても、今以上に値上げすればこういった普通徴収の納付というのはさらに困難になっていくと、それは想定されますよね。どうですか。

○議長（岡田 勇君）

福祉課長。

○福祉課長（岡田博之君）

はい、お答えいたします。

岡本議員のほうからありました普通徴収でございますが、年間の調定額、1年間にいただける収入が約600万円ぐらいです、調定額が。そのうち収入が500万円前後で推移しているということで、約2割ぐらい、年間にすれば約100万円の未納になっている現状だということで理解をしております。

しかしながら、私ども福祉課といたしましては、定期的に訪問をして、できるだけ納めていただきやすいように分割等また生活支援の相談をさせていただいております。全体の介護保険料1億1,500万円ぐらいあります。その中でのお話でございます。普通徴収という形で、無年金の方、また、どうしても生活を優先するがために年金担保等でお金を借り入れられている方等々の事情を考慮しながら、福祉課としては、先ほど言いましたように定期的な訪問、相談をさせてもらっているところでございますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今でもね、要はそういう生活に支障が出ているということでしょう。要は、それを優先すれば保険料は払い切れませんということですし、何かを担保にした、そういったことを利用しないと保険料は払えません。そういういろんな配慮がないとできませんというのが今でもそういう現状なわけですね。そうですね。だから、そういった状況である上に、さらに値上げをしたら、より困難になりますねということをおね、いか悪いかは別にしても、現象としてそうなる想定ができますねというふうに聞いているわけです。それは十分そうなると思うんです。

実際、普通徴収の方というのはどういう方かといえばね、年間18万円以下の年金の方でしょう。月1万5,000円です。そういう方からも保険料というものをとっているわけですよ。本来、こういう方にとってはならないと思うんです。でも、国の制度でとるようになっていっていると。その結果として、これだけの払い切れない人を毎年生んでいるということなんですね。それはお認めになると思うんですよ。そういう中でね、町長、いろいろ財政上の都合のことを言われた上で値上げは避けられないと言っけどもね、避けていただきたいんです、保険者の責任者として。

先ほど課長は1億何千万円のうちのこれだけの話ですからと言われましたよね。五、六百万円の話だと。だったら、やはり本来は負担能力の大変乏しい方です、普通徴収の方というのはね。こういうような状況を今後生まないためにも、やはり今回の改定において250円の分について何とか町として手当をして、値上げにならないように措置をしていただくというのがね、保険者というのは要は町長が責任者なわけですから、それは町長の判断でできるはずですから、そこはぜひ値上げにならない措置を判断していただきたいと思うんです。

先ほどから普通徴収の方の話をしてますけども、特別徴収の方だって大変なんですよ。要は、有無を言わせずというか天引きですからね。払う、払わないというよりも、さきに引かれて年金をいただいているわけですから、滞納をしようがないわけですよ、先に引かれているんだから。だからね、そういう人たちだって、引かれる分がふえる

わけですよ。ということは、自分の自由になるお金というのがまた減るわけです。だから、特別徴収の人だって大変大きな負担になるんです。

てそういうことも考えたら、ここでまた250円といえどもですよ、値上げというのは絶対許されないというふうに思いますんで、町長として判断いただいて、来年度予算の保険料の値上げについては避けられるように努力いただきたいと思うんですけども、その辺はどうですか。努力いただけますか。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えさせていただきます。

この介護保険制度というのは、今日的に非常に大事な制度として生まれてきました。1つには、国を挙げてこの制度を維持していこうと、やっぱり大事にしていこうと、こういう1つの柱のもとに、この維持のもとにどうしてやっていけるか、こういうことであります。

それぞれ今もお尋ねがありますように、市町村自治体でその責任として運営はしているということですが、そこの実情に合わせてやっていこうという面もあるわけなんですけど、しかし、大きい外枠は決められておりません。いわゆる地元が22%。従来でしたら22%についてはいただいでくださいねと。それが今度は23%だけはいただいでください。そうしないとなかなかいかないと。この枠は和東町で決めたわけじゃないに、国で決められていくと。

この1%の枠というのは、前も答弁させていただきました。和東町の掛ける数字の計算が実態に見ていきますと、先ほど課長が言いましたように、250円ぐらいに相当するんじゃないかなと、こういうことであります。これは大きく制度上の問題であります。

そこで課長も答弁しておりましたように、今度はこの中での運営していくときに、

いわゆる先ほど2割の話もありましたが、やはり居宅介護、施設の内容を十分これはそれ以上に住民の皆さんに安心してもらえるような制度にできる限りしていきたいということと、やっぱり住民に困っておられる方、いろいろある方がありますので、この辺は十分相談の窓口を広げて、そして、その方によって物を考えていこうというのが所管課の考え、和東町としてもとっていきたくと、こういうことであります。

当然、生活相談も含めた話をしていく中で、今、質問がありました内容についても考えていく。だから、制度そのもので否定していくということにはなかなかならんわけであります。

当然、この介護制度を今後も存続し得る、維持し得る大事な保険でありますので、こういう方向の大きい枠ではのっていきますが、しかし、和東町と来たときには、課長も答弁しておりましたように、生活相談、多くの窓口をあけて、そういった人の答えにも応えていけるように、安心していただけるためにも努力していきたいと、こういうことでありますので、その内容についてひとつご理解のほうをよろしく願いたします。

○議長（岡田 勇君）

8番、竹内議員。

○8番（竹内きみ代君）

それでは、2点だけ質問させていただきたいと思います。

10ページの先ほども岡本議員から質問がございましたが、空き家バンク開設に向けていよいよスタートをするということで、これは本当に大変喜ばしいことであるというふうに思っております。我が町におきましては、平成26年に基本データが108件あるという空き家の実態が出ております。これにつまましていよいよ動いていくわけでございますが、少しお聞きいたしたいのは、この空き家バンク、今、6万円につまましては交通費であるということで、20回分というふうに見ていただいております。この中で京都宅建協会がどういったお仕事をしてくれるのかというところの確

認で、私も京都宅建協会について調べてみました。

住民側として一番不安に思いますことは、やはりこのお家に入りたいな、この家がいいなというふうに思ったときに、住宅診断をどういうふうにやってくれるか。この診断につきましてですね、もちろん専門家の診断が必要であります。しかし、その診断をしていただくだけでも費用がかかります。最低でも6万円から8万円ぐらいはかかるであろうというふうに言われております。この診断につきましてこういった方向が示されるのか、その辺わかりましたらお聞きしたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

宅建協会との仕事についてなんですけども、竹内議員がおっしゃいました診断というものはですね、私も不勉強なもので、こういったものかという金額まで調べてなかったんですけども、今、進めているところの協会との話というのは、実際のこういった方が来られると。移住者がいらっしゃって、物件の所有者というところのマッチングというのは、地元も含めた了解をとるということは、あくまでも行政が仲介に入っ
てやろうかと思っております。

宅建協会に任せるのは最終的な契約段階の契約書であったりですね、専門的な知識が要る部分でのお世話という形で、本当に契約書を用意してもらって、それにはんこを突くというのが答えは決まっているというか、話ができている中で、最終段階の事務手続きをお願いするということで、今、進めておりまして、ほかの市町村ではもうちょっとマッチングの段階から宅建協会に任すというところもあるんですけども、やはり住民の地域とのかかわりとか、しっかり地域活動してくれる人じゃないと困るとかというのは区長さんとかにも聞いていますので、そこはやはり協会に丸投げという形はできないかなというふうにも思っております、和東町としては慎重に進めてい

きたいと思っています。

その細かなところの詳細というのは、宅建協会の第6支部という宇治管内が山城管内の第6支部になっているんですけども、ここの細かな調整になってきまして、こちらは細かな調整というのは今後行っていくということで、何とか年内に協定を結んで、空き家バンクを円滑に進められるようにしたいと思っております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

8番、竹内議員。

○8番（竹内きみ代君）

京都府下に7支部がございまして、2,701の会員があるというふうにも宅建協会にも書いておりました。直接は山城地域、宇治になるかもわかりませんが、もう一つ大事な点は、やはりリフォームという、修繕するというのも出てくるかと思えます。

これは先の話ですけれども、今こういうことを確認しておかないと、出発が大事だと思いますので、このリフォームに関しましては、やはり他の業者ばかりを入れるのではなくて、やはり地元の経済活性化ということもございまして、地元のそういう事業主とつなげられるような、そういうことを考えていただきたいなというふうに思います。

これが1点と、もう1点は瑕疵保険というのがございまして。これは安心を求める。もしもだめなときは保険がありますよという、そういう制度がございまして。この瑕疵保険をつくるような制度、つくっておられるかもわかりませんが、この2点について要望しておきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

まず、リフォームの地元業者への発注につきましては、今、京都府の制度では、特区制度の180万円の補助金というのがあるんですけども、今後、町独自の支援策を考えていく中で、地元の事業者への発注ということも視野に入れて、それを例えば支援条件にするであったりとかですね、そういったことも検討していきたいと思います。

瑕疵保険につきましては、宅建協会のほうともう一度相談しまして、こういったものがあるのか。なるべく移住者の方、また住宅所有者の方にご迷惑がかからないような格好で有利なものであるかどうかも検討の上、導入について進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

8番、竹内議員。

○8番（竹内きみ代君）

本当にこれまで長年なかなか進まなかった空き家バンクの窓口でございますので、ぜひとも成功させていきたいというふうな思いでおります。

インターネットでされる場合は、その窓口は地域力推進課になるというふうに理解してよろしいのでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

今、考えているのは、町のホームページの中に空き家バンクという特設バナーをつくって、そこで検索できるようにしようというふうに思っております。ですので、直接の管理は地域力推進課のほうでさせてもらうことになるというふうに考えております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

8番、竹内議員。

○8番（竹内きみ代君）

わかりました。ぜひ、成功させていただきたいと思います。

それと、もう1点、16ページですが、お茶の駅和東、この調査設計業務委託料が300万円計上されております。これにつきましてご説明を願いたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

はい、お答えさせていただきます。

これにつきましては、茶業のイノベーションということで、グリーンティ和東、現在ございます。今までの議会でも民泊の関係であったり、観光の観光でトイレが足りないとかいったところもございますので、グリーンティ和東を今回、躯体を修繕するための設計を委託するものでございます。

今、合併浄化槽にトイレのみがつながっている状況でございますので、全ての排水分を整理いたしまして、それを公共下水のほうにつないでいきたいというふうに思っております。

ということで、昭和62年にグリーンティ和東ができておりますので、屋根であったり、施設を今後また観光に使えるような形の中で改修していきたいなというふうに考えております。

○議長（岡田 勇君）

8番、竹内議員。

○8番（竹内きみ代君）

ただいま答弁いただきました。その水周り、水道、屋根とか、そういった改修のみ

ということであるのでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

はい、お答えさせていただきます。

現在、グリーンティ和東につきましては、和東茶カフェも入っていただいております。その分につきましては和東町がお茶のまちであるというようなPRもしていただいております。現に無料でお茶を飲んでいただいたり、また、茶農家さんから委託を受けた形の中でお茶を販売するというような形で、各個人さんではなかなか対応できないところを担っていただいているところがございますので、今後どのような形でその方々のご商売をされるかわかりませんが、現状の中で和東町をもっとアピールしていきたいということでございますので、そういった場所も提供できるような形で見直もしたいというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

8番、竹内議員。

○8番（竹内きみ代君）

最後に、町長にお尋ねしたいと思います。

本当に活性化センター、雇用促進協議会、グリーンティ、それからカフェというふうなたくさんのものが集約された一つの建物であります。その一角を活用しての和東茶カフェなりそれぞれのお仕事をされております。今後、トンネルが開通すれば、非常に沈下した場所でもございますので、もっともっと浮上した中での将来的に安定したお客様を迎えるような場所にしていくなさざるを得ないかというふうに、これは誰が見てもそんな思いでいらっしゃるわけでございます。その辺の展望はどのように持っていらっしゃるのか確認しておきたいと思っております。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

ただいまご質問いただきましたように、35年にはトンネルで完成すると、それまでに完成すると、こういうことでもあります。そういうことになれば、あの時点というのは非常に大きな拠点になるわけでもあります。あそこの拠点整備というのは、これからの時代の方向として大事だというふうに思っております。だから、今のところの拠点ということで、すぐ整備という構想は具現化してないんですが、その拠点のまだ拠点として今やってきた役割がグリーンティであったわけです。

そのグリーンティが先駆けとした中での施設にしていくべきだと、こういうことで、今回はその補正でまず見ていただいたわけなんですけど、タイトルはお茶の駅ということでもありますように、あそこはあの施設をお茶の駅というには考えるべきじゃなく、あの地域全体をお茶の駅と、民も公で協働で盛り上げていく地点にしていくべきが将来の方向だろうと思います。

そういった方向がこれからも新しい計画として国のいろんな動き等を見て、そういったところに焦点に当て進めていくべきだというように思っておりますので、今、後発的な事業としてやっているというものではない。

前座としては、あそこの施設をまずその最初に拠点にして、さらにエリアの拠点として、そして和東町の拠点にすると、それが大事だというように思っておりますので、今、お尋ねがありますように、そういうことを見込んで進めておるということでご理解をいただけたらありがたいと思います。

よろしく申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

8番、竹内議員。

○8番（竹内きみ代君）

よくわかりました。

私は本当に一つの施設しか見ておりませんでした。そうではなくて、本当に地方創生の中でこの和東町をどうするのか、また、トンネルから抜けた方たちをどう迎えるのかといえば、あの辺、周辺を一体として考えたお茶の駅という、そういうことであるかというふうに理解をいたしました。

ですから、本当に今後ですね、町だけの予算ではこれは賄えません。ですから、国の予算をしっかりととっていただきまして、全体をお茶の駅にしていけるような構想、または公設民営でもいいと思います。そういった大きなことに向けて今後取り組んでいただきますよう要望いたしまして、終わります。

○議長（岡田 勇君）

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより、採決いたします。

採決は1件ごとに行います。

議案第36号 平成29年度和東町一般会計補正予算（第6号）を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、議案第36号 平成29年度和東町一般会計補正予算（第6号）は、原案のとおり可決されました。

議案第37号 平成29年度和東町介護保険特別会計補正予算（第3号）を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、議案第37号 平成29年度和東町介護保険特別会計補正予算（第3

号)は、原案のとおり可決されました。

議案第38号 平成29年度和束町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、議案第38号 平成29年度和束町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)は、原案のとおり可決されました。

会議の途中ですが、ただいまから午後2時まで休憩します。

休憩(午前11時51分～午後2時00分)

○議長(岡田 勇君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第4、議案第39号 和束町体験交流センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長(堀 忠雄君)

議案第39号の提案理由を申し上げます。

和束町体験交流センターにおいて、このたび住民のニーズに応えるため、テレワーク等新しい仕事づくりによる移住促進及び地域経済の活性化を推進するための事業に取り組んでまいりたいと存じます。

つきましては、同センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する必要性が生じたので、提案させていただいた次第であります。

ご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○議長(岡田 勇君)

農村振興課長。

○農村振興課長(東本繁和君)

それでは、私から、議案第39号の提案をさせていただきます。

議案第39号

和東町体験交流センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

上記の議案を提出する。

平成29年12月19日提出

和東町長 堀 忠雄

1枚おめくりください。

和東町体験交流センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

和東町体験交流センターの設置及び管理に関する条例の一部を次のように改正する。

第1条中「図るため」を「図り、かつ、情報通信技術を活用した仕事づくり並びに移住促進及び地域経済活動の活性化を促進するため」に改め、第3条中第5号を第6号とし、第4号の次に次の1号を加える。

(5) テレワーク等新しい仕事づくりによる移住促進及び地域経済の活性化を推進するための事業

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

ということでございまして、右側に新旧対照表をつけております。議長のお許しを得ておりますので、これを使いましてご説明させていただきます。

現行、右側でございまして。「図るため、」という部分を左側の改正案の下線部分に改正するというところでございます。

また、(事業)第3条中の右側の現行の(5)番を左側のように(6番)というふうに改めまして、(5)番にテレワーク等新しい仕事づくりによる移住促進及び地域経済の活性化するための事業ということで、この文言をつけ加えるということでござ

います。

以上、ご審議のほどよろしくお願いたします。

○議長（岡田 勇君）

これから質疑を行います。

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

それでは、幾つかお聞きしたいと思いますけども、今回、体験交流センターの事業として、そこにもありますように、情報通信技術を活用した仕事づくり並びに移住促進及び地域経済の活性化を促進するためということで、たった2行ではありますけども、かなり大きな意味合いを持つことが追加をされております。その具体化事業として、テレワーク等新しい仕事づくりによる移住促進及び地域経済の活性化を推進するための事業というふうになっておりますけども、これは具体的にはどのようなことを想定されておりますでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

農村振興課長。

○農村振興課長（東本繁和君）

お答えさせていただきます。

これにつきましては、予算化させていただいておりますスマート・イン・レジデンスという事業でございます、詳しくは地域力推進課長のほうからお願いしたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

現在、体験交流センターの2階部分を改修いたしまして、6月議会でお認めいただ

きましたスマートワーク・イン・レジデンス事業ということで、まさにここに書かれてあるようなテレワーク、離れたところにながら、LAN環境であったり推進環境を整えて、例えばインターネットでつながっているから、離れたところにおいても仕事ができる。会社に行くことと同じような条件下で仕事ができると、そういった新しい働き方を実現するための施設として、今、改修を進めているところでございます。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今、体験交流センターをそのために改修しているということですが、そのために使うと想定されているいわゆる区画というものがどの程度想定されているのか、また、そこにいわゆるこういう事業として入られる方というのはどういう方、事業所なのか、また個人なのか、その辺の想定はどうなっているのでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

お答えいたします。

こちらのテレワークスペースを活用しまして、大きく二つの役割を果たしたいと思っております。

一つは、企業のまさに支店機能であるようなものを一営業所が和東町内でできると。それが離れたところにおいても、例えば、都会の事業所が和東事業所という形で、東京にある会社の事業所ができる。その会社は緑に囲まれた空間で伸び伸びと仕事ができるということを提供できる。

もう一つが、まさに在宅勤務に近い形なんですけども、ある企業の人わざわざ出勤しなくても、そこのところの、例えば体験交流センターの中にあるパソコンを使っ

て会社とやりとりをすることによって、出勤することなく、その場所で仕事をする
ことができると、この二つの働き方ということを想定しております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

仮にそういったことが想定されるとしてですね、この体験交流センターで例えばど
の程度の事業所といいますか、最大どの程度受け入れが可能というふうに考えておら
れるのか、その辺はいかがですか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

まず、今、改修工事、ハード工事をやっているんですけども、それに先行して委託
事業者である管理する事業者というのを決定しております。まず、その管理事業者の
プロポーザルによる決定させてもらったんですけども、提案内容というのが、その会
社のサテライトオフィス、ある会社の和東サテライトオフィスという名目でまず1社
誘致するということになっております。

それに加えて、個室のような区切られたブースというのを四つ程度、それと、あと、
大きな打ち合わせテーブルのようなところで一つ用意する格好になっておりまして、
そこで部屋全体にLAN環境が整っておりますので、インターネットがつながった状
況で仕事ができると。

また、そのサテライトオフィスの企業の取り組みとしまして、社内会議を京都の営
業所ではなくて和東町内でその会社の会議を開いたりもしたいということで、都会で
働くのではなくて、こういう田園空間に囲まれた、茶畑に囲まれた空間での仕事は新

たな働き方としてやっていきたいというふうなことで、今、その事業者に決めたところでございます。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

ということは、要は1社が入れるということですか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

お答えいたします。

1社は一社入っているんですけども、それ以外に四つのブースのスペースであったり、大きなテーブルであったり、そういったところで複数の企業であったり個人の利用になっております。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

それですね、今、そういったこと言われたんですけども、いわゆるテレワークなどという働き方というのは、今、国のほうも働き方改革の一環の中で、こういった今、言われたような働き方を推奨するというので、テレワークという働き方を挙げておられます。

ただ、一方で、こういった働き方というのは、いわゆる今の労働時間ですね、今、言われた朝、出社して、夕方、退社するといったような、よく今まであったようなスタンダードな出社形態にとらわれずに、その方の状況に応じて出入りしてやるというようなことが一定可能ですからね、一方では労働時間の管理が大変難しいという話も

されております。ということはですね、ここのいわゆる改修された部分のセンターの中の事務所というのは、どのような管理になるのかということなんですね。

要は、体験交流センター自身は公共施設ですから、何時までとか、開館時間というものが設けられていると思うんです。それはそういったものについては遵守されるものなのか、それとも24時間、その事業所なりの働き方によってずっと使われるような、そういうことも想定されるのかですね、そういった場合に、ここの施設の管理は一体どうなるのか、その辺のことはどのようにお考えですか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

今のところですね、管理する事業所のほうと、今後、詳細に詰めていくことになっているんですけども、24時間営業であったり、そういったことは考えておらず、下から今、我々の連合の教育委員会になっておりますので、基本的には、我々と同じような時間帯にあけるというのを想定しております。

ただ、何時まであけるとか、いつからあけるとか、その時間に関しては、今後、委託事業者のほうと詳細に詰めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

基本的には、今の連合の事務所であるとか、教育委員会の業務と合わせるという話をされていますけども、ただ、それもまだ決まったわけではないし、事業所自身がそういったものを取り扱う以上は、そんな縛りがあるては困るといったことになるかもしれない。そういったことを例えばされた場合には、じゃあ、入ってもらう事業所と

して認められるのかどうかということも出てくると思うんですね。その辺は今、余りよくわからない面があると思うんです。

それと、やはりこの体験交流センターがそれだけのための施設だったら、それも余りどうこう言わないかもしれませんが、基本的にここにもありますように、もともと前の教育委員会も入ってましたし、教育委員や、またスポーツ、レクリエーション、文化、図書などですね、そういった文化活動を進めていく、そういった場でもあるわけですね。だから、そういった場所であるっていうこと、住民の方がそこで利用される公共施設であるということの機能にいわゆる支障を来すようではだめだと思うんですよね。

その辺、例えば、いろんな形でそういう部分で今、利用されている方への利用制限であるとか、例えば、今、使っておられる部屋が使えなくなるとかいうようなことはあってはならないと思うんですね、今回のことで。その辺はこの事業が入ったとしても対応できるということでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

既存の使っておられる方への配慮についてでございますけども、今、2階のスペースというのが大きな部屋というのが4室あったと思うんですね。そのうちの1室のみを今、改修工事をやっておりますして、その場所だけが今回テレワークスペースとして活用すると。それ以外の3部屋については、そのうち2部屋については今までどおりサークル活動等で利用できるようにしておりますので、かつ今、改修する場所というのが倉庫として使われていた場所で、一般の方も使われてなかった場所ですので、町民の皆さんへの影響というのは一応最小限にとどめるように配慮はしておる計画になっております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

最小限にとどめるということですけども、その辺のことが十分に利用者の方に、こういったことが入るので、どうこうというお話があったのかどうかはよくわからないんですけども、そういったこともちゃんと説明する必要があるというふうに思うんですよね。

そういった事業所が入るということは、単にそこに入られて仕事をされているということだけにとどまらないんですね。幾らインターネットでつながれて、パソコン一つで仕事ができるということだとしても、そこでは会社自身のさまざまな情報であるとか、データを取り扱っておられると思うんです。いわゆる個人情報の問題であると、事業所の情報であるとか、そういった管理というものもやはりもちろんされることだと思いますけども、ただ、不特定多数の方が利用される施設ですから、そういった意味でのセキュリティの問題とか出入りの問題ですね、そういったものも、当然、今までよりも気をつけなくちゃいけないということにもなると思うんですね。その辺の対策というのはされるんでしょうか。

○議長（岡田 勇君）

地域力推進課長。

○地域力推進課長（犬石剛史君）

はい、お答えいたします。

例えば、ウイルスの関係であったりとか、確かに懸念されることは想定されるべきものでありまして、今後、委託事業者のほうと相談をしながら、必要な講じるべき処置というのは行政としても措置をしていかなきゃいけないと思っておりますし、ソフト事業者のほうと管理事業者のほうと相談しながら進めていきたいと思っております。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

この間、いろいろと説明を聞かせていただいたんですけども、大事なところで十分詰め切れてないということは否めないというように思うんですよね。私が思っているのは、もちろんそういったことで施設を有効活用するであるとか、そこを拠点にして、ここに書かれているような移住促進とか地域経済活動の活性化というものが図られるということは決して悪いことではないのではないかという思いもありますけども、ただ、やはりここというの基本的には、先ほどから言っていますように、住民の文化活動であるとか教育活動、そういったものを振興していく、交流活動を進めていくという意味で整備をされた場所だと思うんです。その辺が十分に、ある意味活用され、これにふさわしい事業として私はまだされているとは思ってないんです。ですから、やはりそういったことをある意味置き去りにしたまま、こういうことを名目でこういったものを進めていくということ自身は、やはりどのように整理されてこういったことをされようとしたのかというのは、私としては今の説明では十分な理解としてはなかなか得られない状況がありますので、もう少しさまざまな方が利用されているわけですから、そういった方の意見なんかもちやんと事前に聞くなり、聴取するとか理解を得る中でこういったことはしていかないと、いろんな意味での問題も起こってきますから、その辺、もう少しちゃんと整理された中で提案されるべきじゃないかなというふうに思いますけども、その辺いかがですか。

○議長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えいたします。

今回の条例の改正であります、今、岡本議員の質問にもありましたように、一つ

は和東町の恵まれた農村空間を生かしたふるさとと教育、そして農業・福祉等により交流及び定住促進を図るというのは、今まで第1の目的として設置をしてまいりました。

先ほど課長が言うておりますように、これをさらに深めていこうということで、これをするのに、これは目的ですから、かつ今日の情報通信技術を活用した仕事づくり並びに移住促進及び地域経済活動の活性化を促進していくということで、さらに手段として具体化させていただきました。この辺のところは、東部地域というのは、自然に恵まれて、共通した農山村とか、そういう地域であります。だから、南山城村、笠置町、和東町、今、未来づくりセンターというのを設置しているわけなんですけど、そうしたセンターをどう進めていこうかという地域づくりの中で京都府とも連携して、そして、これだけやなしに今日的な手段を入れて、そして、さらに今、岡本議員が言われたように内容の充実、そして今日的な課題に答えていかなければならない、こういう時代的要請が加わるべき。

そして、先ほどもありましたように、体験交流センターにはまだまだ未利用のところがありました。先ほど倉庫ということも課長も答弁しておりましたが、そういったところを今度は有効利用していこうということで今やりました。そして、企業を募集するとか、テレワークとか、スマートワーキングに取り組んでもらえる今日的な働き方の問題ですが、そういった企業を選択していかなきゃならないわけなんですけど、これは誰でもいいというわけにはならないんですね。今、言われたように、こういった目的を達成する。

例えば、和東町でしたら、今までの福祉を入れて交流をしていこうということであれば観光と福祉を絡める、教育と福祉を絡める、農業と福祉を絡める、こういったことが今まで和東町が進めている問題とも絡んできますし、3町村一緒に取り組んでいる内容にもかなう問題であるわけで、京都府としてもそれを進めている内容でありますので、今回、そういった施設を利用しようということで、企業の募集もいわゆる提

案をしていただきました。その提案の内容が今までやってきた、私が今、申し上げましたような内容にかなうと、こういうことでありますので、こういったことを含めて、和東町のさらなる交流の促進をしていこうと。そうした中での新しいいわゆるスマートワーキングというんですか、そういったものを取り入れた内容についてやっていこうということで、今、取り組んでいるところであります。そのためにもきっちりと条例改正をして、位置づけを持って進めていくことが一番重要だということで今回考えました。

その他とか、いろんな上でも書いておったんですけども、それではもう一つはつきりしないと。だから、今回、もう少し具体的な手段というものをに入れて改正していこうということで、今回の条例の改正をお願いしたところでありますので、今、岡本議員も言われたように、一般的に全部広げていくというものではないわけなんであります、やっぱり従来からやっているこのセンターの設置の目的にかなうものであると。さらに充実する手段をもう少し具体的に加えた、こういうことでご理解のほうをよろしく願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

今、町長が言われましたけども、これ以上もう言いませんけども、いわゆる体験交流センターがこういう趣旨、目的に沿った形として十分に利用されてこなかったというのは、例えば、今まで管理そのものも今、農村振興課ですけど、それ以前は、学童保育があったというだけの話で福祉課だったんですね。学童保育が学校に行ったからというだけで農村振興課になった。

今、実際に農村振興課がどれだけこの体験交流センターの管理・運営に責任を持っておられるかといったら、ほとんど持っておられないと思うんですよ、多分ね、具体的には。一応、いろいろ言われたら答えられるかもしれないけども、例えば、農村振

興課で体験交流センターをどう運営していくかということについてどれだけ方針を持ってされているのか、このこと一つとっても、提案されたのは農村振興課だけでも、じゃあ、詳しいことは地域力推進課でと言ったら、農村振興課としては余りよく知りませんということがここだけでもあると思うんですよ。

だから、そういう点でも、この体験交流センター自身の事業の位置づけ自身が曖昧な中で、今、地方創生であるとか、働き方改革の中でこういったことを取り入れているいろんな挑戦しようという、そういった姿勢としては評価できるものはありますけども、ただ、やはりさっきも言いましたように、ここを利用されているいろんな方がおられる中で、本当にここをどういう場所にしていくのかという議論が余りないままにこういうことが具体化されてくるといのは、どうなのかという思いがありますので、そこはぜひ今からでも十分声を聞く機会もありますし、それはそれで検討いただきたいなというふうに思いますので、私のほうからはこれで終わりたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより、採決いたします。

議案第39号 和東町体験交流センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立多数です。

したがって、議案第39号 和東町体験交流センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

日程第5、議案第40号 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例

の一部を改正する条例、議案第41号 和東町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例、以上2件を一括議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長（堀 忠雄君）

議案第40号 特別職の職員で常勤のものゝ給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例、議案第41号 和東町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の提案理由を申し上げます。

人事院勧告並びに国家公務員の職員給与法の改正に伴い、条例の一部を改正いたしたく提案させていただいた次第であります。

ご審議の上、ご承認賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

総務課長。

○総務課長（中嶋浩喜君）

それでは、議案第40号及び41号のご説明を申し上げます。

議案第40号

特別職の職員で常勤のものゝ給与及び旅費に関する条例の
一部を改正する条例

上記の議案を提出する。

平成29年12月19日提出

和東町長 堀 忠雄

次のページが一部改正条例の条文でございます。議長のお許しを得ておりますので、資料の新旧対照表の次の一部改正概要によりましてご説明申し上げます。

提案理由にもありましたように、人事院勧告並びに国家公務員の職員給与法の改正に伴い、一般職の正職員に準じて所要の改正を行うものでございます。

まず、第1条ということで、平成29年12月の期末手当の支給率を0.05月分引き上げるとのことでございます。

これにつきましては、29年4月1日に遡及して適用することとなっております。

第2条でございますけれども、第1条で改正した期末手当の支給率を6月と12月に均等に0.025月分ずつに改定することでございます。これにつきましては、平成30年4月1日を施行といたします。

続きまして、

議案第41号

和東町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

上記の議案を提出する。

平成29年12月19日提出

和東町長 堀 忠雄

次ページ以降に一部改正条例の条文を載せさせていただいております。これにつきましても議長のお許しを得ておりますので、資料の概要版によりましてご説明申し上げます。

片袖折りの資料をつけさせていただいております。その次のページに一部改正の概要を載せさせていただいております。

これにつきましても、人事院勧告並びに国家公務員の職員給与法の改正に伴いまして、所要の改正を行うものでございます。

第1条で、平成29年12月の勤勉手当の支給率を0.1月分引き上げると。

それと、再任用職員については、12月勤勉手当支給率を0.05月分引き上げるとのことでございます。

勤勉手当引き上げに伴う勤勉手当減額対象者に係る減額率の改定、それと初任給は民間格差があることから1,000円、若年層についても同程度、その他はそれぞれ

400円の引き上げを基本的に給料表の改定を行うということでございます。

これにつきましては、平成29年4月1日の遡及適用ということとなります。

続きまして、第2条でございます。第1条で改正した勤勉手当の支給率を6月と12月に均等に0.05月分ずつに改定するというところでございます。

再任用職員につきましては、第1条で改正した勤勉手当の支給率を6月と12月に均等に0.025月分ずつに改定するというところでございます。

これにつきましては、平成30年4月1日施行としております。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより、採決いたします。

採決は1件ごとに行います。

議案第40号 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、議案第40号 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

議案第41号 和東町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を原案のとおり

り決定することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、議案第41号 和束町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

日程第6、議案第42号 平成29年度和束町簡易水道統合事業中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事請負契約の変更についてを議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長（堀 忠雄君）

議案第42号の提案理由を申し上げます。

平成29年9月26日に契約しました中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事において、水処理設備と機器費等に変更が生じたことにより、当該工事請負契約の変更の契約を締結したいので、地方自治法第96条第1項第5号の規定により議会の議決を求める必要があることから、ここに提案させていただいた次第であります。

よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

それでは、私のほうからは、議案第42号についての説明をさせていただきます。

議案第42号

平成29年度和束町簡易水道統合事業中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事請負契約の変更について

中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事請負契約を下記のとおり変更する契約を締結したいので、地方自治法第96条第1項第5号の規定により議会の議決を求める。

記

契約金額に係る部分中「2億6,244万円」を「2億7,114万4,800円」に、契約期間に係る部分中「平成30年3月15日」を「平成30年3月25日」に改める。

平成29年12月19日提出

和東町長 堀 忠雄

1枚おめくりいただきまして、今回の変更の概要でございます。議長のお許しを得ておりますので、資料等を用いてご説明させていただきます。

資料No.42です。

中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事変更契約の概要

- 1 事業名 和東町簡易水道統合事業
- 2 工事名 中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事
- 3 工事場所 京都府相楽郡和東町大字湯船地内
- 4 契約金額 「2億6,244万円」を「2億7,114万4,800円」に変更
- 5 契約の相手方 大阪市北区南森町1丁目4番10号
理水化学株式会社大阪支店取締役大阪支店長 牧野伸彦
- 6 契約期間 「平成29年9月27日から平成30年3月15日」を「平成30年3月25日」に変更
- 7 支出科目 和東町簡易水道事業特別会計
(款) 02 施設費
(項) 01 施設費
(目) 01 施設費
(節) 15 工事請負費

でございます。

皆さんの資料の次のページ、右側でございます。

今回の浄水場の関係の工事の変更でございます。

まず、1点につきましては、中央浄水場及び取水場、俗に取水ポンプのあるところでございます。浄水場と取水ポンプの間のケーブルを当初は直埋設で検討しておりましたが、N T Tとの交渉の関係で、これがN T Tの電話回線を使用することができました。その関係での操作盤の増、逆に、その関係で監視カメラのケーブルと浄化センターの間の光化の工事の減でございます。

これにつきましては、発注当初、和東町内における光ケーブルの配信につきましては、住宅地内5戸以上の家があるところでないとはケーブルの設置ができないということで、N T Tとの交渉の中では、当初の段階では使用できませんでした。

ただ、協議を続ける中、ことしの9月上旬にN T Tのほうが今回の回線を全て管理する中でのランニング及びN T Tとしての管理も含めまして、無住地についても、今回、特別ケーブルを張っていただけということになりましたので、直埋設で行う予定でしたケーブル等の部分をN T Tが賄うということになりましたので、これが減と増になっております。

この関係で、同じく、機器の設置の進みが変わりますので、和東町役場内の監視制御盤につきましても一部のものが減ということで、操作盤等の制御システムの使用の不用減が出たということでございます。

あわせて、前処理ろ過機変更新設工事でございます。

本体、これにつきましてはユニフロという施設でございます。

1枚めくっていただきましたところにつけておる資料でございます。

浄水場に建っております4基のユニフロでございます。このユニフロの中に命といわんばかりの施設がございます。それをもう1枚めくっていただきますと、エアリフトポンプというものでございます。このエアリフトポンプといいますのは、第1次処理がユニフロで行うんですけども、このユニフロで行う第1次処理の濁度を取り払うために設置されているポンプでございます。このポンプにつきましては、当初、1基

が不調ということで、3基で運転をしてまいりました。分解しないとわからないということで、一応、1基をとめた状況で3基で過去運転をしてきております。これにつきまして、エアリフトポンプの年次点検、これを8月28日に実施しております。その関係で、中を分解、エアリフトポンプの1基がエアが漏れるという状況が起きて、これを早期に修理しなければならないということで、ポンプの機器の修繕が判明しました。

ただ、今回の工事につきましては長寿命化の工事ということもありまして、エアリフトポンプについての工事を今回の事業に吹き込めないかということで京都府とも協議した結果、長寿命化工事の中で補助事業の対象となるということでございましたので、今回、その修繕を行います。

これにつきましては、本体を分解する関係もございます。それと、残り2基につきましても同時にかえるということで、4基全てかえてしまうということで協議を行っております。その関係で、4基分のエアリフトポンプの修繕でございます。

あわせて、今回、薬注関係の周辺の配管の工事の関係も含めまして、場内の側溝等の沈下部分を掘削のときに合わせてするほうが良いということで、これにつきましても、今回、配管の関係も含めて若干の土工の変更が出ております。

変更内容につきましては、水処理設備でございます。当初1億51万5,000円を変更で1億2,033万3,600円に、機器分につきましては、1億5,692万5,000円を1億5,081万1,200円、工期につきましては30年3月15日から0年3月25日に変更させていただきます。

以上、今回の変更内容でございます。

よろしくご承認のほうをお願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

これより質疑を行います。

質疑はありませんか。

1 番、岡田議員。

○1 番（岡田泰正君）

今回の変更なんですけれども、簡易水道統合については、これは絶対に早急に和東町としては取り組んでいかなければならない必要な施設であるということは認識をいたしておるところでございます。

そこで、何点かご質問させていただきたいんですけれども、今、説明いただきましたように、光ケーブルの回線を9月上旬に使ってもいいよという許可をいただいたというお話でしたけれども、9月議会は9月13日に定例が入っているんですけれども、上旬というのはいつごろの日にかかったんですか。上旬という日には、NTTが光回線を利用してもいいよという許可がおりたのは上旬という話でしたけれど、いつの日にかかったのか、記憶があったら教えてください。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

今のご質問、申しわけございません。日までは今、記憶していないんですけれども、当初の計画の中で継続審議をさせていただいておりましたので、ただ、ほかの各施設との関係と、それから全てのランニングコストを含めまして、NTTの提示する額とうちの提示する額、それからNTTの配線の張れる範囲の調整が難航していたのが現実でございます。その関係で9月のたしか議会の始まる前であります。

ただ、その点につきまして若干補足させてほしいんですけれども、今回の工事につきましては7月末をもって設計書を上げるという行程で動いております。8月15日に告示をし、9月5日に入札を振り、その後、議会のほうに承認をいただくという工程を前もって計画しておりました関係上、工事の計画というか工事の設計書のでき上がりが7月31日にでき上がっておりますので、この関係で、その段階で告示という行為を起しますので、一般競争入札の関係で1カ月弱の日を確実にとりますので、こ

の段階で変更するという事はできないという状況が発生しています。それに合わせて今のエアリフトポンプとそれから回線につきましては9月の上旬となりましたので、12月議会に出すということで動かさせていただきました。まだ、工事につきましては25%ぐらいのところまで進捗しておりますので、このままで3月までできると思っております。

○議長（岡田 勇君）

1番、岡田議員。

○1番（岡田泰正君）

それでは、次に、先ほど説明いただきましたように、前処理のろ過機の変更のところですね、これは安心・安全な水を町民の方に供給するためには絶対必要なるろ過機でございます。それを問題があるというふうに判断された根拠はどこにあるんですか。修理をしなきゃならないというふうにおっしゃいましたね。これはやはり当初、統合する前に原課としては十分把握していなければならない問題ではなからうかと私は素人ながら考えるんですけれども、その経過について説明してください。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

お尋ねの件でございますけれども、お答えさせていただきます。

年次点検につきましては年2回行っております。今回8月と2月ぐらいに行うんですけれども、年次点検について2回行っております、その前に1基が不調を起こしておった原因はうちのほうでつかんでおります。

といいましても、分解して直すとなれば、これにつきましては多額の経費が係ります。1基だけやるということになりますと、ほかの3基とのバランスもでございます。最低でも2基がとまる段階でという状況を担当のほうで組んでいたということがあります。

今回、表に見えてきているお金は700万円ちょっとの増額になるんですけども、実際的には1,500万円ほどかかるという状況です。1基のポンプを直して、残りの3基をそのままフルに使いますと、そこでまたバランスが崩れるんで、それも含めまして2基が最大動ける状況のところまでは引っ張るということが、予算的にはうちとしても単独の会計を持っていますので、何とかしていという報告も受けております。

ただ、今回、年次点検でエアリフトポンプといいますのは、エアを送り込んで、砂を下から上へ吹き上げるわけですね。それで水をろ過するというので、そのエアが漏れているということがわかりまして、このポンプにつきましては今回初めてですけども、もう1基につきましては今から10年前ぐらいに修理をしております。今回、工事の長寿命化ということもありまして、2基目のポンプに不調を確認できたので、できることやったら今回やってしまいたいということで京都府と調整をした経過がございます。

これにつきましては、適化法の関係もございまして、ポンプの寿命等々も含めまして15年ということで、この施設が動き出したのが平成12年ですので、15年を経過しておりますので、耐用年数も過ぎているということも確認がとれましたので、今回合わせて補助事業にのりますので、何とかこれでやることによってうちの財源を少しでも助けたいということも含めまして、今回変更に踏み切ったのが1点でございます。

もう1点につきましては、先ほどから申していますように、4基が同じ行程で動けるということの長寿命化につきましては一番大事なことでございますので、あわせて保険とは言いませんけども、15年の経年劣化も考えまして、2基も一気にやりかえるということで、ユニフロ自体のリニューアルといいますか、全部をやりかえるということに決めて、今回、工事に変更させていただきました。

○議長（岡田 勇君）

1番、岡田議員。

○ 1 番（岡田泰正君）

いまの話は当然の話だと思います。であるならば、当初になぜその判断ができなかったのかということが私は疑問に考えるところでございます。

金額的にも 870 万円。入札が当初の入札率が 97 ぐらいでしたね。それを 870 万円が 2 億 6,000 万円に対する大体 3.4% ぐらいだとすれば、100% になっちゃうんですね。うがった考え方をすれば、そのように仕組みられたような感覚も、ちょっとですけど、うがった考えかなんですけども、あったのかなというような形が心の中でよぎりました。

当初の設計でこのような形で、今おっしゃったようなことであるならば、今回のシステム変更をするのに、現場の原課と一緒にですね、設計を起こしていただくときに十分な設計者に対する説明責任というものほどのように今お考えなんですか。

○ 議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○ 建設事業課長（馬場正実君）

お答えいたします。

仕組みられたとかいう話について私のほうでは何とも言えませんけども、年次点検は 8 月 28 日に行っておりますので、ここまでわかりません。ここまでわからないということは、先ほど言いましたように、15 日から告示がある以上、これについてはその費用をどう考えるかということになると思います。

N T T のほうにつきましては、当初は正直なところ絶対無理だということで話が進んでおった関係で、そうしていると 9 月の議会に間に合わないということもありましたので、ここの部分について直で埋設していこうということで考えておりました。

ただ、N T T のほうが中央浄水場に引っ張る線とそれに分岐する線が当初は別に引っ張らなあかんというような話はしておったんですけども、二つの送信方法がありまして、その二つの送信方法を使えば何とかなるということになりましたので、それで

今回別のルートで引っ張っていただけることになったということで、時期的に重なった部分がそういう憶測になるんかと思えますけども、その部分につきましては真摯に仕事をしておりますので、ご理解のほうをよろしくお願いしたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

1 番、岡田議員。

○1 番（岡田泰正君）

それと、もう1点ですね、補正の金額が870万円余りの金額になるわけですけども、それに対する見積もりがですね、これは理水化学のところから出てきた金額なわけですね。であるならば、今度の補正に上げられた金額、また、この設備を変更される機器の金額が本当に妥当な金額であるのか、私たちにはその辺のところははっきりとわからないわけなんですけども、何をもってこの金額が妥当であるということで提案されているのか、その辺の根拠はどうなっているのか、その点お伺いしたいと思います。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

はい、お答えいたします。

エアリフトポンプにつきましては、確かに理水の見積もりプラスアルファでいただいて計画しております。これにつきましては、業者見積もりである部分については、うちの歩掛かり等々を使っておりますので、金額の問題はないと考えております。

なお、私が申したいのは、このポンプをもっと早くに修理しなければならないということを先ほども説明させていただきましたけども、そのときに見積もりをもらっております。今回初めてもらったわけではございませんので、それに合わせまして今回の金額の見積もりが妥当であるという確認をしておりますので、ただ、時期がこの時期になっておりますので、今のような質問になるのかと思えます。

○議長（岡田 勇君）

1 番、岡田議員。

○1 番（岡田泰正君）

今、説明していただきましたように、時期的な、日にち的な問題で、全体的に疑惑というんですかね、不信に考えるところが多々あったと思うんですけれども、今後こういったことも出てこようと思いますので、十分詰めた中で、最終的に判断していただく中で、大きな工事については発注をお願いしたい、提案していただきたいと、このように思います。

今おっしゃるように、多くの財源を抱えた町村でございませぬので、やはり経費というものには、最終的には切り詰め切り詰め、安全な最適な設備をしていくというのが一つの目標でございませぬので、今後ともよろしくお願いしたいと思ひます。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

9 番、小西議員。

○9 番（小西 啓君）

今、岡田議員と質問はダブりますが、最初の設計の段階でこんなんわかつとんの違います。全然合点いかない。設計しているところとやっているところは通ずるところと違うの。ズブズブのとこ。それやのに何でこんなんわからへんの。そして、場内整備の土工の場合、こんなん見た目でわかるでしょう。何でこんなん追加になるの当初から入ってなあかんやん。どこ見てたん。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

当初からわかっていたという部分については、何回もお答えしますが、これにつきましては、あくまでも年次点検で発見されたものですので、当初からわかっている

たものではございません。

ただ、1基は調子が悪いというのはわかっていましたので、これについては動かしてなかったというのが現実でございます。

それと、先ほどの土工の件でございますけども、建屋の裏側の配管をやりかえたときに若干下がっている部分を修正しておくほうがいいということで、今回追加で若干の土工を触らせていただいているのが現実でございます。

○議長（岡田 勇君）

9番、小西議員。

○9番（小西 啓君）

調子が悪いということは、もう長いこと使っている悪いということになっているんでしょう。そしたら、それは今度新しくして直そうとしているねやったら取りかえるの筋でしょう、大体、最初の設計の中に入れるのが。設計に入れなくて、そして途中で見てみたら悪くなったさかいに、今度これ買いかえますわって、そんな話通らへんでしょう。何で最初から設計のときに調子が悪いってわかったから、調子が悪いさかいに何とかせなあきませんなということで設計の段階で見てもらわなだめでしょう。その辺が全然わからないわ、意味。

それと、土工の問題をもうちょっとはっきりピチッと行って。これは見た目で見られるでしょう。舗装がガタガタになっているとか、ここ直さなあかんで、こんなもんせっかくやってんねから、鼻っから直さなんでしょう。全然わからへんわ。何で設計屋にそういうことを言わないの、鼻から、2億何ぼの仕事してんねんから。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

はい、お答えします。

当初から不具合を起こしているというのは、うちのほうも確認をしておりました。

ただ、1,500万円以上かかる工事でございます。それをさきにやるというのができないという状況があったのは事実です。それで、今回入れたのは、確かに、先ほど岡田議員のほうからご質問がございましたけども、8月の年次点検の段階で2基目のポンプのエア漏れが確認されたので、今回やり直すということになって踏み切ったのは事実です。

これにつきましては、4基を同時に一気に使うということは、今のところ水の供給の関係で行っておりません。3基で回っておった事実もありましたので、本来はここでエア漏れがなかったら今回の工事に初めから入れないという計画で当初設計を組んでおりましたので、来年度以降、もしくだけたらということもありました。

ただ、今回入れましたのは、2基目のエア漏れが確認されましたので、これについてこの工事を含むことにし、なおかつ2基については問題ないですけども、経年劣化も含めてやりかえるということにさせていただいたのが現実でございます。ですので、今後、補助金の対象になるということもありますので、今回4基を一気にやり直すということで上げさせていただいております。

土工につきましては、先ほど小西議員が言われるように、見た目で、現実、経年の沈下が見られておりました。大きな支障はなかったんですけども、今回、長寿命化という関係もございましたので、全てのところを直せるところは直していこうということで、その部分については、掘削の関係も含めまして、若干面積を広げさせていただいたというのが現実でございます。

○議長（岡田 勇君）

9番、小西議員。

○9番（小西 啓君）

しつこくなりますが、この金額とかいろんなことを言ってもらったのは委員会でやってることなんです。委員会でこんなこと出てないですよ。ただ、追加が出させてもらいますとか言って、それで終わって、大したことない。何やろなと思ったんです。

変更がありますわ。委員会で全然たたいてないんですよ、この問題。たたいていたら、こんな岡田泰正議員の意見も出やんし、私の意見も出ないんですよ。そこでバンバンたたくんですよ。それが議運の中で総務課長が細かい金額の中身までばらばらしゃべってくれたんですよ。総務課長、そりゃあもうええわって。今度議会の中でそしたら叩かなあかんさかいに、議運の中でそのことをたたいてもうても、総務課長は担当と違うからわからへんのやから、金額を言うてもうてあれやわって私とめきたんですよ。なぜ、委員会のときにこのような細かい話をしてもらえなかったんですか。そしたら、こんなもん議場の中でガタガタガタガタやらならんことないんですよ。

○議長（岡田 勇君）

質疑の途中ですが、ただいまから3時10分まで休憩します。

休憩（午後3時00分～午後3時10分）

○議長（岡田 勇君）

休憩前に引き続き、質疑を続けます。

9番、小西議員。

○9番（小西 啓君）

余りしつこくてしつこくて、先ほどもしつこいほどしつこいって私からも言いましたけれど、一番の問題点は、設計をやっているところにちゃんと原点に戻って、上がってきた時点でちゃんとやらないとだめ。自分たちもよく見ていることも、これはおかしいなって思ってるねんから、その辺がちょっと間違い。

それと、委員会がやってるねんから、10日前に、本会議を開く前に、議運の開く前に。そのときに何の話も出なかった。議運さえ出ていたら、細かい話は私たちは全部聞くねんから、そこでたたいてるねんから。そしたら、岡田泰正議員の意見も出やんし、私の意見も出てきやへん、本会議の中で。その中であかんと思ってるのは、私は座ってますよ。委員長も座ってるかもわからへん。小西さん、おかしいな、こんなもん。私ら正副そろってまた座ってんなんけど、ほんまにおかしいわなと言うてます

わ。これはきょうまた流れたら困るから、ほかの議員には立ってこれて言うてますけど、立ってこれるでしょう、多分。私はそれでも確信犯ですよ。座ってますよ。こんなことあり得っこないもん、委員会さえやれば、ちゃんと説明すれば。もう少しちゃんと委員会とかいろんなもんを大事にして、もっと議会というものを大事に考えなアカんわ。軽々思ったやろ、通ると思って。ただ、それだけです。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

まことに申しわけございません。私の説明不足ということであります。以後、注意、業務に取り組みますので、よろしくお願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより、採決いたします。

議案第42号 平成29年度和束町簡易水道統合事業中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事請負契約の変更については、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立多数です。

したがって、議案第42号 平成29年度和束町簡易水道統合事業中央浄水場水処理設備・監視制御設備工事請負契約の変更については、原案のとおり可決されました。

日程第7、議案第43号 土地改良事業の施行について（災害復旧）を議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

町長。

○町長（堀 忠雄君）

議案第43号の提案理由を申し上げます。

平成29年8月7日から8日にかけての台風5号豪雨災害及び平成29年10月21日から23日にかけての台風21号豪雨災害により、発生した農地、農業用施設災害復旧工事を施工するに当たり、土地改良法第96条の4において準用する同法第49条第1項の規定により、議会の議決を求める必要があることから、ここに提案させていただきます。

よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

それでは、私のほうから、議案第43号についてご説明させていただきます。

議案第43号

土地改良事業の施行について（災害復旧）

和東町において、災害復旧事業を下記のとおり施行することについて、土地改良法第96条の4において準用する同法第49条第1項の規定により、議会の議決を求める。

事業名	災害復旧事業
工事名	農地農業用施設災害復旧工事
内容	平成29年発生災害
数量	8件
金額	3,595万7,000円

平成29年12月19日提出

今回提案させていただきました災害につきましては、農地農業用施設災害でございます。復旧に当たりましては、過日11月1日に災害査定を受検しました農業用水路1件、農地4件、また12月13日に災害査定を受検しました農業用施設・道路3件、計8件の災害復旧工事に着手すべく、現在、準備を進めているところです。

これらの災害につきましては、いずれも本年8月7日から8日にかけての台風第5号の豪雨災害及び10月21日から23日にかけての台風21号豪雨災害により被災したもので、被災場所につきましては、下島、石寺、柚田、別所、園、中地内において、さきに申しあげましたとおり、水路1件、道路3件、農地4件でございます。

復旧につきましては全てブロック積み工法の復旧を計画しております。

以上、議案第43号の説明とさせていただきます。

ご審議いただき、ご採決いただきますようお願い申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

1番、岡田議員。

○1番（岡田泰正君）

一般会計の補正予算のところですね、ページが5ページなんですけれども、農業用施設の災害復旧の分担金として2件上げていただいているんですけれども、これについては農家の方々、そういった方々は分担を要求しなきゃならない人々に対して説明されて、分担金を出すと確認は十分にとれているんですか。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

はい、お答えいたします。

災害につきましては、当初、災害が発生した段階で区長さんのほうにお願いしております。その区長さんのほうがまとめていただきまして、和東町のほうに被災報告を出していただいております。その中で公災なのか農災なのかという点については、その段階で町のほうが判断させていただきます。判断させていただいた上で、農災になる部分につきましては分担金がかかりますということで、率につきましてはこれから土工等の調査が行われた後の率になるんですけども、それを出させていただいて請求するというので、災害が発生した時点で農災に出すという承諾は所有者のほうからいただいております。

○議長（岡田 勇君）

1 番、岡田議員。

○1 番（岡田泰正君）

そのほうが確認をとれておれば、約束ができておれば、あるいは契約がなされておれば必要最小限のことは守られているんじゃないかならうかと思えます。

これについて工事の完成見込みはどのような予定をされているのか、最後にお聞かせください。

○議長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

はい、お答えいたします。

先ほど説明させていただきましたように、12月13日が最終の農災の査定日でございます。これが終わりましたので、今回、きょうこれを採決いただきまして、議決いただきますと施越承認という仕事に入ります。これが行われて工事の発注ができるのが早くても2月の半ば以降にならうかと思えます。それからの工事になります。

ただ、農災でございますので、来年の植えつけ、お茶等の時期に間に合う、もしくは暫定でそこを使用するどちらかの判断につきましては、これから地元の耕作者さん

及び区長さん、また隣接の方々とも協議した上で工事の発注は検討していきたいと考えております。できるだけ早い時期に、発注するものにつきましては発注させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（岡田 勇君）

1 番、岡田議員。

○1 番（岡田泰正君）

この台風によってかなり住民の方々の生活が脅かされているというところもございまして、いろんな障害はありますけれども、予定どおり粛々と進んでいただけるようにご期待申し上げたいと思っております。

以上です。

○議長（岡田 勇君）

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

討論なしと認めます。

討論を終結いたします。

これより、採決いたします。

議案第43号 土地改良事業の施行について（災害復旧）を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立全員です。

したがって、議案第43号 土地改良事業の施行について（災害復旧）は、原案のとおり可決されました。

日程第8、発議第6号 介護保険制度の改悪に反対し、抜本的改善を求める意見書を議題といたします。

提案理由及び議案の説明を求めます。

6番、岡本議員。

○6番（岡本正意君）

発議第6号の提案理由を申し上げます。

6度目となる来年4月からの介護保険制度の改定は、辛うじて介護報酬は若干アップの方向と報じられているものの、今回も極めて厳しい内容となっております。前回改定では、介護報酬の大幅カットとともに要支援の高齢者を保険給付の対象から外し総合事業に移されましたが、今回は訪問介護の生活援助について回数制限を行う仕組みつくるなど、さらなるサービスカットをねらっております。

その一方で、第1号被保険者の負担割合をふやし、保険料のさらなる値上げを進めるなど、ますます負担ばかりで介護のない様相を強めております。これでは、安心できる介護はますます遠のき、高齢化が急速に進む本町のまちづくりにも極めてマイナスの影響を及ぼすことは必至であり、政府に対し抜本的な改善を求める必要性があると考え、本意見書を提案するものです。

それでは、お配りしております別紙を読み上げまして提案させていただきます。

発議第6号

介護保険制度の改悪に反対し、抜本的改善を求める意見書

上記の議案を別紙のとおり、会議規則第14条第1項の規定に基づき提出します。

平成29年12月19日

提出者 和束町議会議員 岡本正意

和束町議会議長 岡田 勇 様

介護保険制度の改悪に反対し、抜本的改善を求める意見書

介護保険制度は、それまで家庭に依存してきた介護負担を社会全体で支え、家族の負担軽減を図るとともに、高齢者の人間らしい生活と尊厳を保障することを目的にスタートしました。

制度開始から17年経過した今日、当初の目的は達成されるどころか、3年ごとの

改定のたびに保険料や利用料値上げ、介護報酬の削減やサービスの縮小などが繰り返される中で、懸念された「保険あって介護なし」の事態が極めて深刻になっています。6度目となる来年度からの改定内容も、「制度崩壊」に拍車をかける厳しいものになっています。

12月13日に厚労省が示した報告では、訪問介護の生活援助利用抑制の仕組みや通所介護の大規模事業所の報酬引き下げなど、保険給付の削減を求める財務省の方針に沿った厳しい内容になっています。特に、訪問介護の生活援助利用者を狙い撃ちにした抑制策は、要介護認定による給付上限額の枠内のサービスさえ奪う制度の趣旨にも反するものです。また、生活援助を担うスタッフの資格要件を緩め、より安価にする方向は、サービスの質的後退の危険性があります。

通所介護では前回の小規模事業所の基本報酬カットに続き、大規模事業所もカットする方向で、サービス提供を支える事業所の経営困難がますます拡大する危険性があります。このような改定は介護不安をますます助長するものであり、撤回、再検討すべきです。

同時に、安心できる介護制度の構築、整備に向けて、抜本的な改善への転換が求められます。そのためにも、社会保障予算の削減路線を改め、介護報酬を大幅に引き上げるとともに、介護労働者の処遇改善、在宅、施設サービスの充実、介護保険料、利用料の負担軽減などを進めることが必要です。

高齢化が進む中、介護関係予算は削る対象ではなく充実すべき分野です。とりわけ高齢化が急速に進む本町のような自治体、地域にとって安心できる介護制度の整備は切実な願いであり、「地方創生」に欠かせない要素です。

政府におかれては、以上のような懸念や不安に正面から応え、安心できる介護保険制度の整備、運用へ真剣な検討をされることを強く求めるものです。

以上、地方自治法第99条の規定により、本意見書を提出します。

平成29年12月19日

衆議院議長 大島 理森 様
参議院議長 伊達 忠一 様
内閣総理大臣 安倍 晋三 様
財務大臣 麻生 太郎 様
厚生労働大臣 加藤 勝信 様

京都府相楽郡和東町議会

よろしく願いいたします。

○議長（岡田 勇君）

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。

質疑を終結いたします。

これから討論を行います。

6番、岡本議員、賛成、反対。

○6番（岡本正意君）

発議第6号について賛成討論を行います。

意見書の冒頭にもあるように、介護保険制度は社会全体で高齢者の介護や生活を支え、尊厳を守るとともに、家族自身の負担を減らし、生活を支えるために創設されました。

しかし、実際は、制度の改定が行われるたびに負担がふえ、サービスカットが繰り返される中で、「老老介護」「介護難民」「介護離職」「介護殺人」など、介護をめぐる状況は、むしろ厳しさを増しております。専門職として介護を担うヘルパー等、介護職員の処遇改善も遅々として進まず、介護離職も後を絶ちません。制度は極めて深刻な事態になっております。

来年度からの制度改定で焦点となっている生活援助を主とした訪問介護の回数制限

は、認定に基づく利用限度額の範囲内でのサービスさえも問題視し、利用抑制を図ろうとするものであり、もはや保険制度としての機能不全、崩壊のあらわれと言わざるを得ません。

この問題では、生活援助のスタッフを簡易な研修で養成したものを新たに配置する動きもあり、サービスの質的な後退にもつながるもので、二重三重に許されない改悪です。

介護報酬は全体で0.54%引き上げるとしていますが、前回の大幅削減による大打撃を補うにはほど遠いもので、サービスごとの改定率ではマイナス改定になるものもあり、事業所の厳しい状況の改善には焼け石に水であり、抜本的な引き上げが不可欠となっております。

第一号被保険者、高齢者の介護保険料についても、負担割合を現行から1%引き上げ、さらなる負担増を誘導しており、現行でも極めて高い水準にある本町の介護保険料も、基準額で月額250円程度の値上げが予定され、ついに6,000円を上回る方向であり、年金天引きの特別徴収でも、極めて低い年金受給者が対象の普通徴収でも、ますます厳しい事態が予想されます。これでは、幾ら制度が維持されても、肝心の高齢者、利用者が置き去りにされ、負担だけ押しつけてサービスは使えない事態が進むだけであり、国家的詐欺同然と言われても仕方がない状況です。

政府は社会保障費の自然増さえ認めずカットする方針ですが、高齢化に伴う介護費用などは必要経費であり、意見書にもあるように削減する対象ではなく、充実させることこそ必要であり、当然のことです。

談合疑惑が浮上したりニア新幹線や無駄としか言いようのない北陸新幹線の延伸、巡航ミサイルや欠陥機であるオスプレイなどに巨額の予算を充てる余裕があるのであれば、必要経費である介護や福祉にこそ充当すべきではないでしょうか。

以上の点を指摘し、賛成討論といたします。

○議長（岡田 勇君）

ほかにありませんか。

討論を終結いたします。

これより、採決いたします。

発議第6号 介護保険制度の改悪に反対し、抜本的改善を求める意見書を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

起立少数です。

したがって、発議第6号 介護保険制度の改悪に反対し、抜本的改善を求める意見書は否決されました。

日程第9、委員会の閉会中の継続審査・調査についてを議題といたします。

各委員長から、会議規則第75条の規定により、お手元に配付の申し出一覧表のとおり、閉会中の継続審査・調査の申し出があります。

お諮りいたします。

各委員長の申し出のとおり、委員会の閉会中の継続審査・調査に付することにご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

したがって、各委員長の申し出のとおり、閉会中の継続審査・調査に付することに決定いたしました。

お諮りいたします。

今期定例会に付された事件は全て議了いたしました。

したがって、会議規則第7条の規定により、本日をもって閉会したいと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

したがって、今期定例会は、本日をもって閉会することに決定いたしました。

町長、挨拶。

○町長（堀 忠雄君）

平成29年第4回の定例会を閉会されるに当たりまして、一言お礼のご挨拶をさせていただきます。

本議会に提案をさせていただきました全議案におきまして、原案どおりご承認をいただきまして本当にありがとうございました。

今回も議会を通じて多くのご意見を賜りました。特に、議案の内容によっては、もっと委員会で十分説明するようにと、こういうご意見もいただき、私どもは本当に重く受けとめさせていただきました。以後、十分気をつけてまいりたいと、このように思いますので、これからも議員の皆様方には和東町のまちづくり全般にわたりますいろいろとご協力賜りますこと、そしてご支援賜りますことを切にお願いしたいと、このように思います。

ことは非常に寒い年末を迎えているわけですが、皆様方には十分お体には気をつけていただいて、新しい年を迎えていただきますことを願ひまして、御礼のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○議長（岡田 勇君）

これをもちまして、平成29年和東町議会第4回定例会を閉会いたします。

ご苦労さまでございました。

午後3時34分閉会

上記議事録は、その内容を正確にして事実と相違なきことを証するため、地方自治法第123条第2項の規定によって署名する。

平成 30 年 1 月 31 日

和東町議会議長 岡 田 勇

署名者

和東町議会議員 吉 田 哲 也

〃

和東町議会議員 井 上 武津男